

# 法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-27

なし

---

(発行年 / Year)

1910



第七百七十一條 養子其配偶者其直系親屬

養子其配偶者其直系親屬

問ニ於テハ第七百七十一條ノ規定ニ依リ親

族關係ハ存スル後ニ雖モ婚姻ヲ為ラズニテ

傳

理由本條ハ既成法典人事編第三十七條ト其大

体ヲ同シラス 咀既成法典ニ十カリシ養子ノ直

法典調査會

系卑屬ノ配偶者ト養親及ヒ其直系尊屬トノ間

ノ婚姻ニ関スル事項ヲ加ヘタルノ差アルノに

第七百七十一條 養子其配偶者為ラズニテ其家

在ル父母ノ承諾ヲ得ルニテ

父母ノ一方ヲ知ラザルニテ其死亡シタルニテ又

其意思ヲ表示スルコト能ハサルニテ又

白勝



才兼諾

日房

參照八三八乃至四二戸令嫁女條七年一月二十九日太政官  
指八年八月七日內務省指同十一月二十九日館曆縣ニ對ス  
ル內務省指同日宮城縣ニ對スル內務省指九年三月內務省  
指佛一四八乃至一五五一五八乃至一六〇澳四九乃至五三  
九二乃至一〇四伊六三乃至六七葡一〇五八一號一〇六  
二一〇六二瑞千八百七十四年十二月二十四日法二七二項  
西四五二號四六乃至四九白草一四二一四三獨一草一二三  
八一三三九同二章一二一〇乃至一二一四紐草五四三號

七  
理由本條ハ既成法典人專編第三十八條乃至第

四十二條ニ該當スルモノトス子才婚姻ヲ為ス

ニ當リテ其父母ノ兼諾ヲ要スルハ我國情ニ

法典調査會

ラレテ至當ノ事ニシテ決シテ其子ノ年數ノ多

少ヲ問ハサルヘキナリ徑テ外國ノ民法ニハ或

ハ成年ノ子ハ婚姻ヲ為スニハ父母ノ兼諾ヲ要

セストレ或ハ男三十年女二十五年ニ達スルト

キハ兼諾ヲ要セストスルモノアレトモ本案ニ

之ヲ採ラスレテ婚姻ヲ為スニハ總テ其父母ノ

口房

下才兼諾トモト以テ来ル

毎夫知レハル夫或レテ知レハルモ又兼

其後一人承継得ルカトモ要ス

其ハ子養田ノ蓋ニトモ  
附據カ者年賦未 終ハ十八  
二一章二節一五一章五五  
日四十二月二十章四十七日  
日四十二月二十章四十七日  
日四十二月二十章四十七日  
日四十二月二十章四十七日

理由本條ハ既成法典人車編第三十八條乃至第

四十二條ニ該當スルモノトス子才婚姻ヲ為ス

ニ當リテ其父母ノ兼諾ヲ要スルハ我國情ニ照

法典調査會

ラシテ至當ノ事ニシテ決シテ其子ノ年數ノ多

少ヲ問ハサルヘキナリ從テ外國ノ民法ニハ或

ハ成年ノ子ハ婚姻ヲ為スニハ父母ノ兼諾ヲ要

セストシ或ハ男三十年女二十五年ニ達スルト

キハ兼諾ヲ要セストスルモノアレトモ本案ニ

シテ採ラスシテ婚姻ヲ為スニハ總テ其父母ノ

29 婚





法め

兼諾ヲ要ストスルコト既成法典ニ於ケルト等

シクシタリ其既成法典ト異ナル所大凡三アリ

一既成法典人車編第三十八條第一項ニハ子ハ

父母ノ兼諾ヲ受クルニ非サレハ婚姻ヲ為ス

コトヲ得ストシ其父母ノ家ニ在ル場合ト否

トヲ區別セサルヲ以テ子ハ婚姻ヲ為スニハ

其家ニ在ラサル父母ノ兼諾ヲモ經ヘキコト

法典調査會

本案

ト為リテ不都合ナルヲ以テカニ於テハ明

カニ限定シ父母カ其家ニ在ル場合ニ於テノ

ニ子ハ其兼諾ヲ得ルコトヲ要ストシタリ又

同項ニハ廣ク父母ト稱スルヲ以テ實父母養

父母繼父母ノ各種ヲ包含スルカ如シト雖モ

第三項ニ於テ繼父アル場合ニ於テ其配偶者



タル母ノ死ニシタルトキハ継父ノ許諾ヲ受  
クヘシ云々ト言ヘルヲ以テ第一項ニ稱スル  
父母トハ實父母ヲ指スモノナルヤヲ疑ハシ  
メ又果シテ實父母ノミヲ指スモノトセハ狹  
隘ニ失レテ不可ナルヲ以テ本案ニ於テ之ヲ  
改メ苟クモ子ノ父母タルニ於テハ實タルト  
養タルト將タ又継タルトヲ區別セシメテ其  
兼諾ヲ經ヘキモノトシ而シテ継父継母等ノ  
兼諾ヲ與ヘサル場合ニ處ス（キ特別ノ規定  
ヲ設ケタリ

## 法典調査會

二既成法典ノ第三十九條ニハ父母共ニ死セシ  
又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ其家ノ  
祖父母ノ許諾ヲ受ク可シトシタルヲ本案ニ

於テ削除シタリ從テ子ハ成年者ナルトキハ  
 何人ノ兼諾ヲモ要セスレテ婚姻スルコトヲ  
 得ヘク未成年者ナルトキハ後見人ノ兼諾ヲ  
 得ルコトヲ要ス祖父母ニシテ後見人ナルト  
 キハ即チ祖父母ノ兼諾ヲ得ルヲ要スルナリ  
 三 既成法典第四十二條ニ育見院ニ在リテ父母  
 ノ知レサル子ハ院長ノ許諾ヲ受クヘシトシ  
 タルヲ削除シタリ父母ナレトスルモ後見人  
 アルトキハ其後見人ノ兼諾ヲ得レハ可トス  
 ヘシ育見院ニ在ル子ハ多クハ後見人ト為ル  
 ヘキ親族ヲ有セサルニ依リ院長ヲ以テ此  
 等不幸ナル子ノ後見人ト為スヲ可トス從テ  
 同條ヲ削除シ單ニ本條第二項ノ規定ノミト



加賀

スルモ實際ノ事實ニ於テハ甚タシキ差異ナ  
カルヘシ

第七百七十一條 ~~婚~~ 婚ノ成立ニ於テハ母ノ同意

ヲ要スルコトハ親族會議ニテ議決スル

其婚姻ヲ許可スルコトヲ得

婚  
生  
元

(参照) 三八三條

理由本條ハ前條第一項ノ原則ニ制限ヲ加ヘタ

ルモノ ~~如~~ 前條第一項ニハ子ハ父母ノ承諾

法典調査會

ヲ得ルヲ要ストシ廣ク父母ト稱シテ實文父母

父母等ト方々サルヲ以テ苟クモ家ニ在ル父母

タルニ於テハ必ス其承諾ヲ得ヘキコトト為ル

而シテ承諾ヲ與フルト否トハ全ク父母ノ任意

ニシテ之ヲ拒ムニ於テ理由否ノ如何ヲ問ハサル

ヲ以テ差シ父母ニシテ何等ノ理由モナキニテ

檀山

律法書  
卷之七  
後見  
南臺

ノ婚姻ヲ拒ムトスルモ子ハ之ヲ如何トモスル  
 ラ得サルヘシ父母ニシテ實父母タルトキハ之  
 三關シテ爭テ生スルコト甚ナカルヘク又不當  
 ヲ子ノ請求ヲ拒ムコト殆トナカルヘシト雖モ  
 血族ノ關係ナキ嫡母又ハ継父母ニアリテハ往  
 往其不當ナルヲ知りナカラ子ノ婚姻ニ承諾ヲ  
 與ヘサルコトナシトセサルヘシ此等ノ場合ニ  
 於テハ子ニ與フルニ親族會ニ請求スルノ權ヲ  
 以テシ親族會ハ子ノ請求ニ因リ其婚姻ヲ許可  
 スルコトヲ得ルモノトス

法典編纂會

第七百七十四條  
 始婚ハ一ノ法律行處ナルヲ以テ禁止スル  
 第七百七十五條  
 婚姻ハ夫ノ住所ノヲ籍地ニ  
 カ其精神ヲ回復シタル時ニ於テ婚姻行處ニハ或ハ  
 一ノ屬本ニシテ一國ニテ其教ヲ生シ但婚後  
 他ノ法律行處ト同シク後見人尙臺ヲ要スルモノナリト  
 爲ス夫始婚ノ場合ニ於テハ妻ノ住所  
 卜解決ヲ生スルコトナシトセズ然レトモ後見人ノ法律代



七〇〇 家照

4

月二十四日法二六二八一項三號二九乃至三三三六乃至四  
 二四七五乃至七九八三二號八六乃至一〇〇。白草一四〇。一  
 四二一五二乃至一五六一七四乃至一七八編一草一。二三一  
 一二四五乃至一二四九回二草一二二二乃至一二二七加五  
 五五七六九乃至七六紐草三四三五四二四五乃至五二  
 第七百八十一條 戸籍吏ハ婚姻力第七百四十四條第七百  
 五十三條第七百五十八條及七前九條ヲ規定其他ノ法令  
 ニ違反セサルコトヲ確認シタル後ニ非サレハ其届出ヲ  
 受理スルコトヲ得ズ但婚姻力第七百四十四條又ハ第七  
 百五十三條ノ規定ニ違反スル場合ニ於テ戸籍吏カ注意  
 ヲ爲シタルニ拘ハラズ當事者カ其届出ヲ爲サンビ欲ス  
 ルトキハ此限ニ在ラス

理由本條ハ婚姻ノ方式ヲ定メタルモノニシテ

既成法典ノ規定ヲ改メタル所多シ既成法典人

事編第四十三條以下ヲ見ルニ婚姻ヲ為サント

法典編卷會

スル者ハ先ノ其地ノ身分取扱吏ニ婚姻ヲ為サ

ントスル申出ヲ為シ次ニ證人ニ層ヲ得テ婚姻

ノ儀式ヲ行ヒ之ヲ行フタル後更ニ身分取扱吏

ニ之ヲ届出ツヘキコトト為

殊ニ婚姻ヲ為サントスルニ先ケテ之ヲ

届出ツルカ如キハ關係人ヲシテ故障ヲ為スコ

婚ノコト  
ハ其職  
務ナリ  
ト云フ  
コト

注ケテ

云々

新ナル規程ヲ

ナカ

大精吏ニ其届出ヲ為スコトヲ要ス

理権ハ禁治產者ノ務者有被及ニ財產管理ニ限ル

前項ノ届出ハ當道有収方及ニ成年ノ證人ニ人

ラ至当トスルヲ以テ本條ニ於テ明カニ結婚ノ事ニ付テ同条

ノ一ノ口數ニテ又ハ自ら署名セシメシ書面

第七百七十五條

(參照)八四三四七乃至四九六七三年十一月四日告親組規則

四年四月二十二日告同八年十二月二十三日告七年十二月二十七

日司法省指八年十二月九日太政官達二〇九號九年二月十

三日司法省指同七月三日太政官指十年六月十九日司法省

達丁四六號十一年五月十一日內務省指同六月八日內務省

回答同七月四日內務省指十一年十一月二十一日大審院判

決十二年五月十六日內務省指十三年七月三十一日大審院

判決十五年二月六日司法省指同月十六日司法省指十六年

四月五日內務省指同五月十七日大審院判決同六月十六日

內務省指二十四年四月四日司法大臣回答佛六三乃至六五

七四七五一四六十六五乃至一六九澳四四四八六九乃至七

六一二六蘭八五〇五乃至一一二一三〇乃至一三六伊七

〇乃至七八九三乃至九九七葡一〇五七一〇六七乃至一〇六

九一〇七二二〇七五乃至一〇八二瑞千八百七十四年十二

ントスル申出ヲ為シ次ニ證人五層ヲ得テ婚姻

ノ儀式ヲ行ヒ之ヲ行フタル後更ニ身分取扱吏

ニ之ヲ届出ツヘキコトト為

殊ニ婚姻ヲ為サントスルニ先ケテ之ヲ

届出ツルカ如キハ關係人ヲシテ故障ヲ為スコ

其職



打本

トラ得セシムルノ餘地ヲ與フルノ主意ニ出テ  
 タルモノナルモ何レノ規定ニモ未タ関係人ニ  
 故障ヲ唱フル權ヲ與ヘルコト見ス且届出ラ公示ス  
 ル方法ヲモ定メサルヲ以テ婚姻前ノ届出ハ  
 殆ト何等ノ益ナクシテ當事者ニ煩累ヲ醸スコ  
 ト大ナルヲ以テ此届出ハ之ヲ廢スルヲ可トス  
 次ニ既成法典ニハ婚姻ノ效力ヲ生スルハ其儀  
 式ヲ行ヒタル時トシ夫婦財産契約ノ第三者ニ  
 對シテ效力ヲ生スルハ婚姻ノ届出後トシタリ  
 夫婦財産契約ノ第三者ニ對シテ效力ヲ生スルコ  
 トニ関シテハ後ニ規定スヘシ婚姻ノ效力ヲ生  
 スル~~時期~~<sup>時</sup>ヲ定メテ儀式ヲ行ヒタル時トシタル  
 ハ事實ニ直キヲ置カント欲シタルニ出ツルモ

法典調査會





住所ニ於テ之ヲ為スルキコトトシ婚養子縁組

不~~レ~~入~~レ~~又婚姻ノ場合ニ限リテ妻ノ住所ニ於テ

之ヲ為スコトヲ許ストク~~レ~~シ而カスル~~レ~~トナ

被~~レ~~虐待~~レ~~來~~レ~~憎~~レ~~憎~~レ~~モ存~~レ~~又身分取扱吏ノ取扱

キ~~レ~~便利~~レ~~未~~レ~~ス~~レ~~ハ~~レ~~本~~レ~~母~~レ~~ハ~~レ~~此~~レ~~等~~レ~~ノ~~レ~~點~~レ~~ニ~~レ~~関~~レ~~シ~~レ~~テ

~~本~~レ~~改~~レ~~正~~レ~~加~~レ~~入~~レ~~又~~レ~~證~~レ~~人~~レ~~ニ~~レ~~人~~レ~~ノ~~レ~~之~~レ~~層~~レ~~ト~~レ~~アリ~~

シ~~レ~~テ~~レ~~改~~レ~~メ~~レ~~ニ~~レ~~人~~レ~~以~~レ~~上~~レ~~ト~~レ~~シ~~レ~~タル~~レ~~ハ~~レ~~證~~レ~~人~~レ~~ノ~~レ~~ニ~~レ~~人~~レ~~タル

法 輿 調 査 會

ハ~~レ~~尤~~レ~~モ~~レ~~普~~レ~~通~~レ~~ノ~~レ~~事~~レ~~實~~レ~~タル~~レ~~ニ~~レ~~相~~レ~~違~~レ~~ナ~~レ~~キ~~レ~~モ~~レ~~之~~レ~~ヲ~~レ~~ニ~~レ~~人

ニ~~レ~~限~~レ~~ル~~レ~~ノ~~レ~~必~~レ~~要~~レ~~ナ~~レ~~シ~~レ~~ト~~レ~~信~~レ~~シ~~レ~~タル~~レ~~ニ~~レ~~因~~レ~~レ~~レ~~ハ~~レ~~ナ~~レ~~リ

婚~~レ~~姻~~レ~~ノ~~レ~~届~~レ~~出~~レ~~ハ~~レ~~口~~レ~~頭~~レ~~ニ~~レ~~テ~~レ~~又~~レ~~ハ~~レ~~自~~レ~~ラ~~レ~~署~~レ~~名~~レ~~シ~~レ~~タル~~レ~~書

面~~レ~~ヲ~~レ~~以~~レ~~テ~~レ~~之~~レ~~ヲ~~レ~~為~~レ~~ス~~レ~~コ~~レ~~ト~~レ~~テ~~レ~~要~~レ~~ス~~レ~~ト~~レ~~シ~~レ~~代~~レ~~理~~レ~~人~~レ~~ヲ~~レ~~以~~レ~~

テ~~レ~~口~~レ~~頭~~レ~~ニ~~レ~~テ~~レ~~届~~レ~~出~~レ~~テ~~レ~~差~~レ~~ク~~レ~~ハ~~レ~~代~~レ~~理~~レ~~人~~レ~~ノ~~レ~~書~~レ~~面~~レ~~ヲ~~レ~~以~~レ~~テ~~レ~~届

出~~レ~~ワ~~レ~~ル~~レ~~コ~~レ~~ト~~レ~~テ~~レ~~許~~レ~~サ~~レ~~ス~~レ~~以~~レ~~テ~~レ~~當~~レ~~事~~レ~~者~~レ~~双~~レ~~方~~レ~~ラ~~レ~~シ~~レ~~テ~~レ~~真

あ

あ

ニ婚姻ヲ為スノ意思アルヲ表示セシムルノ用  
 ニ供ス煩務ヲ帯ヒテ自ラ陳述シ難キ者ハ自署  
 ノ書面ヲ以テ届出ツヘシ無筆ニシテ署名スル  
 コト能ハサル者ハ捺ヲ厭ハス面陳スヘシ署名  
 スルコトヲ得ヌ又先行スルコトヲ得サレ無  
 筆ノ病者カ婚姻ヲ為サントスルトキハ或ハ身  
 負取更ニ書張ヲ請求スルコトヲ得ヘントス

法 政 調 査 會

力或ハ此ノ如キ者ハ婚姻ヲ為スコトヲ得サ  
 如ク定ムルハ一ニテ籍法其他ノ特別法ニ  
 第七百七十六條 妻籍定ハ婚姻カ第七百三十  
 一條乃至第七百四十八條第七百五十二條及七  
 百一十條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ



中西

親ノタル後ニ非サレハ其届出タズ理スルコト

得不但婚姻ノ第七百三十八條又ハ第七百四

十八條ノ規定ニ書及スル場合ニ於テ戸籍吏ノ

參照ノ四四乃至四六七八年三月十九日内務省指佛六六乃至七三一一七二乃至一七九澳六二七八關一一四乃至一二九伊七四七五七八二項三項七九乃至九二九八葡一〇七五三項一〇七六乃至一〇八〇瑞千八百七十四年十二月二十四日法三〇三一一項三四乃至三七西四八八六二項九六一項九七乃至九九白草一五七乃至一七三一一七八加六九七二七三紐華四七乃至四九五二

理由本條ハ既成法典ノ事編第四十四條及ヒ第

四十六條ト大体ノ主意ヲ同シリス唯其煩雜ニ

法典調査會

夫スル點ヲ改メ且民法ニ規定スヘカラサルモ

ノヲ削除シタル差アルノニ同第四十四條ニハ

當事者双方ヨリ出生證書以下三個ノ書類ヲ呈

出セシムルコトトスルモ當事者ヨリ呈出シタ

ル出生證書及ヒ前婚ノ解消ヲ証スル證書ナキ

天戶籍吏ハ戸籍法ニ依リテ當事者ノ出生ニ関

490

婚七八二

中田

親ノタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコト

得不但婚姻ノ第七百三十八條又ハ第七百四

十八條ノ規定ニ違フスル場合ニ於テ戸籍吏ノ

差支ヲ為シタルニ拘ハラズ當事者ノ其届出ヲ

ナシト認スルトキハ此限ニ在ラズ

照

理由本條ハ既成法典ノ事編第四十四條及ヒ第

四十六條ト大体ノ主意ヲ同シリス唯其煩雜ニ

法典調査會

夫スル點ヲ改メ民法ニ規定スヘカラスルモ

ノヲ削除シタル差アルノニ同第四十四條ニハ

當事者双方ヨリ出生證書以下三個ノ書類ヲ呈

出セシムルコトトスルモ當事者ヨリ呈出シタ

ル出生證書及ヒ前婚ノ解消ヲ証スル證書ナキ

モ戸籍吏ハ戸籍法ニ依リテ當事者ノ出生ニ関

40

始

三十七六九四至乃七四三四ノ  
星ル々々名器ヲ目ハ又田  
別ト及方双葉者取ハ田届





海の

又ハ夫タリ妻タルコトニ関シテ知り得ルヲ  
 以テ殊更ニ畜事者ノ双方ラシテ此ノ如キ書類  
 ラ呈出セシムルヲ要セサルヘク又婚姻ニ必要  
 ナル父母戸主等ノ許諾ハ必ラスシモ書類ヲ  
 以テスヘキ必要ナク父母戸主等ハ戸籍吏ニ對  
 シ口頭ニテ之ヲ求ブルモ差支ナカルヘシ故ニ  
 此等ノ書類ヲ必要トセスレテ畜事者ノ手數ヲ  
 降キ成ヘク法律ノ實際ニ行ハルルヲ期セサル  
 ヘカラス及シヤ假ニ此ノ如キ書類ヲ必要トス  
 ルモ多クハ手續差クハ證據ノ事ニ屬スルヲ以  
 テ戸籍法ニ讓ルヲ可トシ本案ニ於テ全ク之ヲ  
 削除シタリ既ニ出生證書ヲ呈出ラ要セサルコ  
 トトスレハ出生證書ヲ呈出スル能ハサル場合

法典調査會



ニ関シテ何等ノ規定ヲ設クルノ必要ナキヲ以テ  
 同條第一項第一號ヲ削除シタル當然ノ結果  
 トシテ次ノ第四十五條ヲ削除シタリ

同編第四十六條ニハ身分取扱吏ハ婚姻ノ儀式  
 ラ行フコトヲ差止ムル場合ニ於テハ理由ヲ記  
 シタル差~~止~~書ヲ授付ス可シトシタルモ特ニ差  
 止書ヲ授付スルノ必要ナキヲ以テ改メテ此ノ

法典調査會

如キ場合~~ハ~~ハ~~ハ~~戸籍吏ハ婚姻ノ届出ヲ受理スル  
 コトヲ得ストシタリ尚同條ニハ當事者ニ與テ  
 ルニ~~ニ~~區裁判所ニ抗告シテ差出ノ取消ヲ求ムル  
 ノ権ヲ以テシ裁判所ノ之ヲ取扱フヘキ手續ニ  
 関シテ規定スル所アルモ民法ニ規定スヘキ事  
 項ニアラスト信シテ同シク之ヲ~~前~~削除シタリ

渡

本條ノ但書ヲ設ケタルハ畜妻者カ戸主ノ兼認

ヲ經スレテ婚姻ヲ為サント欲シテ届出ラタ

ル際戸籍吏ハラヲ知ルトキハ戸籍吏ラシテ畜

妻者ニ一應ノ注意ヲ與ヘ~~籍~~籍ニ関スル又者ヲ

為スラ得セシメントスルモノナリ戸籍吏カ注

意ヲ為シタルニ拘ルテ届出ラ受理センエト

ヲ請求スルトキハラヲ受理スヘキモノトセリ

法典調査會

第七百七十七條 第七百六十九條乃至第七百

七十四條ノ規定ハ日本人カ外國ニ於テ婚姻

ヲ為ス場合ニモ亦之ヲ適用ス

理日本條ノ取成法典人專編第五十條ノ但書ト

其主子同ノ不用條々文ハ憲法中ニ規定

モイ非サレ

~~ハニハスル以前ニテ~~

本



第七百七十九條 ~~外國~~ 在日本人間ニ於テ

婚姻ノ為ニシテ 欲スルニハ 其國ニ駐在スル

日本ノ公使又ハ 領事ニ其届出ヲ送スコトヲ得

此場合ニ於テハ 第七百七十五條及第七百七

(参照人五二法例一。佛四八伊三六八西一。三項白草一  
七九

理由本條ハ 既成法典人事編第五十一條ニ相當

ス婚姻ノ成立ニ関シテ 既成法典ノ規定ヲ改メ

法典調査會

タル當然ノ結果トシテ 同條第一項ニ修正ヲ加

(同條第二項ヲ削除シタリ)

~~第七百七十九條 第七百六十七條乃至第七百~~

~~六十二條ノ規定ハ 外國人カ日本ニ於テ婚姻ヲ~~

~~為ス場合ニモ亦之ニ適用ス~~

~~不籍者ノ婚姻ノ為ニシテ 欲スル外國人ノ~~

海

民法第451条

4  
第二款 婚姻ノ無効及ヒ取消

婚

理由本款ハ既成法典人事編第四章第五節二款

備スルモノナリ既成法典ニハ題シテ婚姻ノ不

成及ヒ無効ト言ヒ又テ改メテ婚姻ノ無効及

ヒ取消トシタルモ其中ニ規定スル事項ハ既成

法典ニ規定シタル事項ト異ナルニ非ス唯本案

法典調査會

ハ法律行為ノ初メヨリ致ナキモノヲ無効ト稱

シ一旦成ラレテ致カラシタル後ニ至リテ

悅モ初メヨリ成ラセザリシカ如クスルヲ取消

ト稱シタルヲスラ既成法典トハ用語ノ意味ヲ

異ニスルニ至リ從テ不成立及ヒ無効トシタル

ヲ改メテ無効及ヒ取消トシタルノニ既成法典



486

婚

婚

不成云ハ本末ノ無效ニ當リ無效ト言ハル異  
取消ニ當ルト解セハ可ナラン

4  
第七百七十一條 婚姻ハ其ノ場合ニ依リ無效ト

トシ置其後ノ其間ニ因リテ書面ニ關シ婚姻

ト為ラ書面ニ關シ

ト書面ニ關シ婚姻ト為ラシメ

法典調査會

(參照)八五五九七年十二月二十七日司法省指八年十二月  
九日太政官達二〇九號九年二月十三日司法省指同七月三  
日太政官指十年六月十九日司法省達了四六號十一年七月  
四日內務省指同十一月二十一日大審院判決十三年七月三  
十一日大審院判決十五年二月六日司法省指同月十六日司  
法省指十六年五月十七日大審院判決佛一四六一八〇一號  
一澳四八五七九四九六一二九隔八五一四〇一四二一四三  
一四七乃至一四九一五四伊六一〇四二項三項一〇五一  
〇六一二一一四葡一〇七二瑞千八百七十四年十二月二  
十四日法二六二八一項三號四三五〇五一西五一八三二號  
一〇一〇二白草一四〇一四二一四四一八四二項一八五  
一八六一八八一九〇一九六銅一草一二三一一二五〇乃至  
一二五八一二二五九二號一二六一二號一二六三一項一二七  
〇同二章一二二九乃至一二三一一二三五乃至一二三八一  
二四〇一二四一一二四四二項一二四五乃至一二五〇一二  
五二加五五八乃至六一六三六八八二三號八三三三號紐草  
三八乃至四〇四四四四號五五二號三號五號

ル條附ヲ

力為メ三其

五條及ヒ第

不同第五十

女如ク為ス意思ナ





五條 婚約 八二項 一  
 十條 九條 三條 八條 由 理  
 十一條 九條 三條 八條 由 理  
 十二條 九條 三條 八條 由 理  
 十三條 九條 三條 八條 由 理  
 十四條 九條 三條 八條 由 理  
 十五條 九條 三條 八條 由 理  
 十六條 九條 三條 八條 由 理  
 十七條 九條 三條 八條 由 理  
 十八條 九條 三條 八條 由 理  
 十九條 九條 三條 八條 由 理  
 二十條 九條 三條 八條 由 理

六條 婚姻ハ第七百八十七條乃至第七百九十  
 定ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

五五二項五六五九六〇六三戸婚律有妻更娶條居夫  
 和娶人妻條戸部先符後娶條嫁女棄妻條制定書百  
 八九年六月二十三日太政官指一同七月十七日內務  
 十年六月二十六日內務省指同八月二十九日內務省  
 二月十四日內務省指同十一月二十九日內務省指  
 三月十日內務省指同六月二十四日內務省指同  
 十二月十二日內務省指同八月二十九日內務省指十九  
 月十四日司法省指二十年七月十日司法省指同十一  
 司法省指同月十七日司法省指同十二月九日司法省  
 一年四月二日司法省指同十二月十三日司法省指同  
 六日司法省指同十二月二十八日司法省指同十二月三  
 日司法省指同二月一日司法省指同二月二十三日司法  
 五月二十九日山梨縣ニ對スル司法省指同日千葉縣  
 司法省指同六月十九日司法省指同月二十五日司

鐵  
 256

佐平

キ場合ヲ限リテ人違衷心又ハ強暴ト為スモ  
 他ノ場合タリトモ苟モ當事者ニ婚姻ヲ為ス意  
 思ナキコト明カナルニ於テハ其婚姻ヲ無效ト  
 スヘキモノナリトシテ本條第一項ノ如ク改メ  
 タリ次ニ同條第二項ニハ第三十四條乃至第三  
 十七條ノ規定ニ違ヒテ為シタル婚姻モ亦不成  
 立トシ近親間ノ婚姻ヲ無效トスレトモ之ヲ無  
 效トスルハ事實上存スルモノヲ存セサルニト  
 ト看做スモノニシテ聊カ女當ナラサル所アル  
 ノミナラスエテ無效トスルニ於テハ此ノ如キ  
 行為ヲ為シタルヨリ生シタル子ノ身分ニ関シ  
 テモ面倒ヲ生スルヲ以テ寧ロ之ヲ取消ノ原因  
 トスルヲ可トス刑法ニ禁スル童婚ヲ為スモ其

法典調査會



婚姻ヲ無效トセス唯或者ノ請求ヲ待テ之ヲ  
 取消スヘキモノトシタルヲ見テモ婚姻ノ無效  
 ハ容易ニ定ムヘキモノニ非サルヲ知ルヘシ  
 本條第二項ハ既成法典ノ第五十九條第一項第  
 一號ニ當ルモノトス既成法典ハ婚姻ノ届出ヲ  
 為サカルモ事實上夫婦ト認め(キ情態ニアル  
 トキハ婚姻ハ成立シタルモノトシ唯後ニ之ヲ  
 取消スコトヲ得ルノミトシタルモ本案ニ於テ  
 ハ届出ヲ婚姻ノ成立ニ必要ナル條件トシタル  
 ヲ以テ届出ナキトキハ婚姻ハ成立セサルモノ  
 トス<sup>之ハ又也</sup>某代<sup>之ハ又也</sup>届出ヲ為ストキハ婚姻ハ完全ニ成  
 立スルモノトシ<sup>之ハ又也</sup>此ノ方式ニ違フ所アルモ為  
 ナニ婚姻取消サルルコトナキモノトセリ即チ

七八六

第二條 ~~三~~但書ヲ加(タル) 所以ニシテ亦既成法

典ト要ナル 所トス 既成法典ニハ管轄邊ノ身分

取扱吏ニ届出ラタルトキ婚姻ノ儀式ヲ行フ

キ日ヲ譲リタルトキ等ハ婚姻ヲ取消スコトヲ

得ルモノトシタリ

第七百~~七十九~~條 婚姻ハ第七百八十二條

第七百八十七條ノ規定ニ依リニ非~~ス~~ルニシ

法典調査會

取消スコトヲ得

參照

(理由)婚姻ハ他ノ法律行為ト異リテ容易ニシラ

取消ス(キモノ)ニ非ス又一般ノ廢罷許推ノ原

則ラ此場合ニ適用スルヲ得スニテ必ス特別

規定ニ由ル(キモノ)トシ第七百八十二條以下

ニテラ規定スルコトトシタリ

カ



七七九

廿八

30 婚

第七百八十六條 婚姻ハ第七百八十七條乃至第七百九十七

二條ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

(參照) 八五五二項五六五九六〇六三戸婚律有妻更娶條居夫

喪改嫁條和娶入妻條戶令先許後娶條嫁女娶妻條御定書百

个條四八九年六月二十三日太政官指一回七月十七日內務

省指一十年六月二十六日內務省指同八月二十九日內務省

指同十二月十四日內務省指十一年一月二十九日內務省指

十二年三月十日內務省指十六年六月十四日內務省訓示同

九月二十二日內務省指十八年一月二十九日內務省指十九

年十二月十四日司法省指二十年九月十日司法省指同十一

月一日司法省指同月十七日司法省指同十二月九日司法省

指二十一年四月二日司法省指同十二月十三日司法省指同

月二十六日司法省指同月二十八日司法省指二十二年三月

二十九日司法省指同四月一日司法省指同月二十三日司法

省指同五月二十九日山梨縣ニ對スル司法省指同日千葉縣

ニ對スル司法省指同六月十九日司法省指同月二十五日司

法省指同七月十日大審院判決同九月十九日千葉縣ニ對ス

三十二

手

司法省指同日長野縣ニ對スル司法省指同十二月二十三  
日司法省指同月二十四日司法省指二十三年二月二十一日  
司法省指同四月二十八日司法省指二十六年六月司法省指  
二十七年一月司法省指佛一八〇一八二一八四一九一澳九  
四關一四一乃至一四七伊一〇四一〇五一〇七一〇八一  
二葡一〇七二乃至一〇七四一〇八六一〇九〇瑞千八百七  
十四年十二月二十四日法五〇乃至五四西五〇一〇一白草  
一四四一八四一八九一九二獨一草一二五〇一二五九同二  
草一二二九乃至一二三四一二三八乃至一二四三印刷四九  
四加五八乃至六一八二紐草三八乃至四〇五四

同十二月十三日司法省損同月二十六日司法省損同月二十八日司法省損二十二年三月二十九日司法省損同四月一日司法省損同月二十三日司法省損同五月二十九日山梨縣ニ對スル司法省損同日千葉縣ニ對スル司法省損同六月十九日司法省損同七月十日大審院判決同九月十九日千葉縣ニ對スル司法省損同日長野縣ニ對スル司法省損同十二月二十三日司法省損同月二十四日司法省損二十三年二月二十一日司法省損同四月二十八日司法省損二十六年六月司法省損二十七年一月司法省損同八月四日一八六澳九四九六一、一、二九四一四〇、一四一、一四四一、一四五、一四八、一四九一

ハ婚姻ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラルルコトナシ

(參照)八五五五九七年十二月二十七日司法省損八年十二月九日太政官達二〇九號九年二月十三日司法省損同七月三日太政官損十年六月十九日司法省損丁四六號十一年七月四日內務省損同十一月二十一日大審院判決十三年七月三十一日大審院判決十五年二月六日司法省損同月十六日司法省損十六年五月十七日大審院判決佛一四六一八〇、一九一、澳四八五七九四九六一、二九四八五一四〇、一四二、一四三、一四七乃至一四九、一五四、伊六一、二〇四二項三項一〇、五一〇、六一、二一一、四葡一〇七、二瑞千八百七十四年十二月二十四日法二六二八一項三號四三、五〇、五二、西五一八三三號一〇、一一〇、二白草一四〇、一四二、一四四、一八四二項一八五、一八六、一八八、一九〇、一九六編一草一二三、一二五〇乃至一二五八、一二五九二號一二六一、二號一二六三二項一二七〇、同二草一二二九乃至一二三、一二三五乃至一二三八、一二四〇、一二四一、一二四四二項一二四五乃至一二五〇、一二五二、加五五五八乃至六一、六三六八八、二三號八三三號紐草三八乃至四〇、四四四四四號五五二號三號五號



七八七

第七百八十一條 第七百九十一條

七十二條ノ規定ニ違反スル婚姻ハ各當事者

其戸主其直直系尊屬及七換事ヨリ其取消ヲ裁判

所ニ請求スルコトヲ得但換事ハ當事者ノ一方

力死セシタル後ニ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百六十七條乃至第七百六十九條ノ規定ニ

違反スル婚姻ニ付テハ當事者ノ配偶者又ハ

法典調査會

前配偶者亦其取消ノ請求スルコトヲ得

参照

(理由) 本條ハ既成法典人事編第五十六條ニ相違

ス既成法典ハ近親間ノ婚姻ヲ不成立トスル主

義ナルヲ以テ取消ヲ規定セシ第七百五十六條ニ之

ヲ包含セサルハ勿論ノ事トス又同條ハ婚姻年

齡ニ違フ者力婚姻ヲ為ス場合配偶者アル

山跡

七〇一〇

婚  
52

~~司法省指同日長野縣ニ對スル司法省指同十二月二十三日司法省指同月二十四日司法省指二十三年二月二十一日司法省指同四月二十八日司法省指二十六年六月司法省指二十七年一月司法省指佛一八〇一八二一八四一九一四九四九四一四一乃至一四七伊一〇四一〇五一〇七一〇八一〇二葡一〇七二乃至一〇七四一〇八六一〇九〇瑞千八百七十四年十二月二十四日法五〇乃至五四西五〇一〇一白草一四四一八四一八九一九二獨一草一二五〇一二五九同二草一二二九乃至一二三四一二三八乃至一二四三印刑四九四加五八乃至六一八二紐草三八乃至四〇五四~~

第七百八十七條 第七百七十一條乃至第七百七十七條ノ

~~規定ニ違反シタル婚姻ハ各當事者其戸主其親族及ヒ檢事ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得  
第七百七十二條乃至第七百七十四條ノ規定ニ違反シタル婚姻ニ付テハ當事者ノ配偶者又ハ前配偶者ノ親族亦其取消ヲ請求スルコトヲ得~~

(參照)入五六五八戸婚律有妻更娶條居夫喪改嫁條和娶入妻



條戸令先經後娶條御定書百个條四八九年六月二十三日太  
 政官指一同七月十七日內務省指一十年六月二十六日內務  
 省指同八月二十九日內務省指同十二月十四日內務省指十  
 一年一月二十九日內務省指十二年三月十日內務省指十六  
 年六月十四日內務省訓示同九月二十二日內務省指十八年  
 一月二十九日內務省指十九年十二月十四日司法省指二十  
 年九月十日司法省指同十一月一日司法省指同月十七日司  
 法省指同十二月九日司法省指二十一年四月二日司法省指  
 同十二月十三日司法省指同月二十六日司法省指同月二十  
 八日司法省指二十二年三月二十九日司法省指同四月一日  
 司法省指同月二十三日司法省指同五月二十九日山梨縣 =  
 對スル司法省指同日千葉縣 = 對スル司法省指同六月十九  
 日司法省指同七月十日大審院判決同九月十九日千葉縣 =  
 對スル司法省指同日長野縣 = 對スル司法省指同十二月二  
 十三日司法省指同月二十四日司法省指二十三年二月二十  
 一日司法省指同四月二十八日司法省指二十六年六月司法  
 省指二十七年一月司法省指佛一八四一八六澳九四九六一  
 二、一、二九團一四〇、一四一、一四四、一四五、一四八、一九一

中略

59

婚

五四伊一。四一項一。一。一。三。一。一。四。葡一。五九一。六  
三一。六四一。七四一二三四乃至一三八番千八百七十  
四年十二月二十四日法四三五二一五二一。項西五。五一。一。  
一一號一。二。白草一八九一九二一九三。獨一草一二五。乃  
至一二五八一二五九三號一二六一三號一二六三一項二項  
一二六五一二七。同。二草一二二九乃至一二三八印刑四九  
四。加五八五九六一八二。一號二號八三一號二號紐草三八乃  
至四。五四一號二號五五一號五號

海  
子



附一四六一五四伊一〇八葡一〇五九一〇六〇瑞千八百七  
十四年十二月二十四日錄五三西五〇白章一八六一八七第  
二章一二三九一二四六一二四六乃至一三五〇紐章五四三  
號五五七號

第七百九十一條

前條ノ取消權ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス  
一 承諾權ヲ有セシ者カ婚姻アリタルコトヲ知リタ  
ル後又ハ詐欺ヲ發見シ若クハ強迫ヲ免レタル後六

者カ重シテ婚姻ヲ為ス場合乃ヒ離婚ノ裁判ヲ

言渡サレタル者カ相違者ト婚姻ヲ為ス場合ヲ

規定スルニ止マリ女カ前婚解消後六个月内ニ

再婚ヲ為シタル場合ヲ言ハサルヲ以テ此場合

ニハ婚姻ヲ取消スコトヲ得サルモノト解セウ

ルヲ以テ本條<sup>七</sup>之ヲ改メ第七百六十<sup>五</sup>條乃

至第七百七十<sup>七</sup>條ノ規定ニ違<sup>反</sup>シタル婚姻云

法典調査會

云ト稱シテ其中ニ婚姻解消ノ後六个月内ニ婚

姻ヲ為シタル場合ヲ規定セル第七百六十<sup>七</sup>條

ヲモ包含セシメタリテ之ヲ包含セシメタルハ此

ノ如キ婚姻ハ血統ヲ以テ之ノ虞アリテ公益ニ関

スル所大ナルヲ以テ一定ノ期間各當事者其戸

主等ヨリ其取消ヲ請求スルコトヲ得ルモノト

法典



不婚

レタハナリ

取消スコトヲ得ル者ニ至リテモ改メタル所ア

リ既成法典ニ於テハ其範圍ヲ大ニ絶對ノ身

屬親ニヒ現實ノ利益ヲ有スル者トモナラズ

ルモ然レドモ~~法律ニ依リテハ~~廣キニ是トシテ

本條ニ於テハ

改メテ~~法律ニ依リテハ~~親族トシ又單ニ財産上ノ利害關係

ヲ有スル者ヲシテ親族上ノ關係ニ容喙スルヲ

法典調査會

得セシムルノ非ナンヲ信シテ之ヲ削除シタリ

此削除ヲ為シ而シテ既成法典ニナカリシ~~財産~~

ヲ加ヘタリ是レ我家族制度ノ下ニアリテハ戸

主ノ意見~~ハ~~重要視スヘキモノニシテ婚姻ヲ為

スニモ必ス其承諾ヲ要スルコトトシ即チ家族

上財産上諸般ノ關係ヲ有スルコト頗ル大ナル

白

者ナルヲ以テ之ヲシテ法律ナル婚姻ノ取消ヲ  
請求スルコトヲ得セシムルハ平當ナレハナリ  
尚ホ本條第二項ヲ設ケタルハ童婚再婚及ヒ其  
者間ノ婚姻ノ場合ニハ當事者ノ現在ノ配偶者  
又ハ前キニ配偶者タリシ者ヲシテ新ナル婚姻  
ノ取消ヲ請求スルコトヲ得セシムルヲ可トス  
ルニ由リシモノトス

法典調査會

既成法典ニハ當事者尊屬親等ノ何時<sup>カ</sup>ニ~~カ~~婚  
姻ノ無效ヲ請求スルコトヲ得ル期間ヲ一概ニ  
無限ノモノトシタルモ婚姻<sup>新</sup>ニ~~カ~~  
ハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ル期間ヲ限ルハ  
キモノト信シ本案ニ於テハ次條以下ニ其期限  
ヲ定メタリ既成法典ニ於テモ總テ無限ノモノ

息



田原

トスルニ非スレテ現ニ其第五十七條ニ於テ  
事者ノ不滿意ニ付キ取消ヲ請求スルコトヲ得  
ル期間ヲ定メタルヲ以テ規定ノ實質ニ至リテ  
ハ本案ト大差ナカクシト雖モ何時ニテモト  
言ヘル統一的ノ文句ハ稍不適當ノ嫌アルヲ以  
テ之ヲ削除シタルナリ

第七百八十一條 第七百八十二條 規定ニ違

法典調査會

不滿意者ハ不滿意者ノ滿意ニ至ル

其不滿意 請求スルコトヲ得

不滿意者ハ不滿意ニ至ル後向ニ其不滿意

(参照八五七條一八五澳九六第一四四二項伊一一〇瑞千八百七十四年十二月二十四日法五二二項西八三一號二項白華一九一〇第一二六三一項二項加八二一號八三一號紐

二十五

ウエツク

理由本條ハ既成法典ノ事編第五十七條ニ改正

何 婚

田原

何婚

トスルニ非スレテ現ニ其第五十七條ニ於テ言  
事者ノ不滿意ニ付キ取消ヲ請求スルコトヲ得  
ル期間ヲ定メタルヲ以テ規定ノ實質ニ至リテ  
ハ本案ト大差ナカクレト雖モ何時ニテモト  
言ヘル 統一的ノ文句ハ稍不適當ノ嫌アルヲ以  
テ之ヲ削除シタルナリ

法典調査會

第七百八十一條 第七百八十一條ノ規定ニ據

テハ婚姻ハ不滿意者力適齡ニ達スル

其取消ノ請求スルコトヲ得

不滿意者ハ適齡ニ達スル後兩方同意

婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ得但し婚姻

ノ取消ハ其後ニ於テ

八 (参考照)

(理由) 本條ハ既成法典ノ事 編第五十七條ニ改正

婚姻ノ取消  
第七百八十一條  
第一四五章





たのめ

7 加一タルモノナリ同條ハ不通齡者ヨリ其婚  
 姻ノ取消ヲ請求スル場合ト不通齡者以外ノ者  
 ヲリ之ヲ請求スル場合トヲ區別セサリシラ本  
 條ニ於テ區別シ不通齡者以外ノ者ハ不通齡者  
 カ適齡ニ達シタルトキハ最早其取消ヲ請求ス  
 ルヲ得サルコトトシ不通齡者ニアリテハ適齡  
 ニ達シタル後尙ホ三ヶ月間ハ之ヲ請求シ得ル  
 コトトシタルナリ是レ父母戸主等ハ十方ノ意  
 思ヲ有シ婚姻者カ適齡ニ達スルマテニ其取消  
 ヲ請求スルコトヲ得ルモノ不通齡者ハ不通齡ノ  
 間ハ意思ノ能力十分ナラスレテ其間ニ取消ヲ  
 請求スルコトヲ得サルニ依リ適齡ニ達シタル  
 後尙ホ三ヶ月ノ猶豫ヲ與フヘキ必要アルヲ以

法典調査會



卷

テナリ

同條ハ第二號及ヒ第三號ヲ以テ婦カ懐胎シタ

ルトキハ婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ得スト

シタルモ本案ハ婦ノ懐胎スルコトヲ得ルト在

トニ依リテ此場合ノ區別ヲモ為サス 其適

數及ヒ不適數ニ依リテ之ヲ區別スルノ主義ヲ

採リタルヲ以テ右ノ規定ハ之ヲ削除シタリ

法典調査會

第七百八十四條 第七百六十八條ノ規定ニ

據テハ婚姻ノ成立ニ解消スル取有ノ日自

本ノ月日經過シタル日ニ始メテ婚姻ノ懐胎

ノ日自本ノ月日經過シタル日ニ始メテ婚姻ノ懐胎

(参照) 戶婚律 居夫喪改嫁 條 漢九六

(理由) 既成法典ハ解消後六个月内ニ為シタル婚

姻ヲ取消スコトヲ得ルモノトセサルニ依リ本

ナリ

テナリ

同條ハ第二號及ヒ第三號ヲ以テ婦ヲ懐胎シタ  
ルトキハ婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ得スト  
シタムモ本案ハ婦ノ懐胎スルコトヲ得ルト在  
トニ依リテハ場合ノ區別ヲモ為サス 其適  
當ナヒ不通齡ニ依リテ之ヲ區別スルノ主義ヲ  
採リタルヲ以テ右ノ規定ハ之ヲ削除シタリ

法典調査會

第七百八十四條 第七百六十八條ノ規定ニ

當テシハ婚姻ノ前ハ解除ハ反有ノ日

不月日經過ノ後ハ再婚後懐胎

言ハルモ其旨 諸君ニ示シテ得ル

(理由) 既成法典ハ解除後六个月内ニ為シタル婚

姻ヲ取消スコトヲ得ルモノトセサルニ依リ本

ナリ



條ニ相當スル條文ナキハ自然ノ結果ナリ本条

ハ此ノ如キ婚姻ヲモ取消スコトヲ得ルモノト

シ取消ノ期間ハ成ヘク短縮スルヲ可トセラ前

婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六ヶ月トシタリ又

假令六个月内タリトモ若シ女ヲ再婚後懐胎シ

タルトキハ最早其婚姻ヲ取消スコトヲ得サル

モノトシタルナリ又此ノ規程ニ

法典調査會

ハ再婚後懐胎シタル確證アルトキハ其懐胎ハ

前婚ニ因リラ生シタルモノニ非サルコト判然

ニ決セラ血統ノ混交ヲ生スル虞ナキヲ以テ

其ノ上輕罰ヲ輕微ナシルハ必ずシモ前婚ノ

不取消

解消後六个月内ハ取消スコトヲ得キモノト

為シ置ク必要ナリハ本條後段ノ規定ヨリ

ヨリ

第七百八十一條 第七百七十三條ノ規定ニ違

夫ハ婚姻ノ家裁權ヲ有セシ者有リ其取消

詐欺又ハ

(參照)八六〇・六一戸令嫁女養妻條佛一八二澳九四乃至九六  
關一四六一五四伊一〇八葡一〇五九一〇六〇瑞千八百七  
十四年十二月二十四日法五三西五〇白草一八六一八七獨  
二草一二三九一二四六一二四八乃至一二五〇紐草五四三  
號五五七號

(理由)本條ハ既成法典人事編第六十條ニ修正ラ

加タルモノナリ同條ニハ許諾ヲ經ヘキ者ノ

許諾ヲ經スレテ婚姻ヲ為シタルトキハ許諾ヲ

法典調查會

與フヘキ者又ハ之ヲ受クヘキ者ヨリ其取消ラ

請求スルコトヲ得ルコトトシタリ許諾ヲ受ク

ヘキ者ヨリモ取消ヲ請求スルコトヲ得トシテ

ルハ婚姻ハ人生ノ大事ニシテ家族及ヒ財産上

ニ關係ヲ有スル所ヨキヲ以テ法律ノ婚姻ハ成

ヘク廣ク之ヲ取消スコトヲ得セシメンコトヲ

直に



一十七日七條  
第一五五條二第一四一五  
二第一二八六九五八  
三第一二二〇七二一五  
四第一三九五二一八五

61 婚

第七百八十五條 第七百七十三條規定違

~~夫~~ 婚姻ハ家統權有キ者ヨリ其取

ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得兼該カ詐欺又ハ

強迫ニ因リタルトキ亦同シ

参照

(理由)本條ハ既成法典人事編第六十條ニ修正ラ

加タルモノナリ同條ニハ詐欺ヲ經ヘキ者ノ

詐欺ヲ經スシテ婚姻ヲ為シタルトキハ詐欺ヲ

法典調査會

與フヘキ者又ハ之ヲ受クヘキ者ヨリ其取消ヲ

請求スルコトヲ得ルコトトシタリ詐欺ヲ受ク

ヘキ者ヨリモ取消ヲ請求スルコトヲ得トシテ

ルハ婚姻ハ人生ノ大事ニシテ家族及ヒ財産上

ニ關係ヲ有スル所多キヲ以テ法律上ノ婚姻ハ成

ヘク廢ク之ヲ取消スユトヲ得セシメンユトラ

直





伏々木

欲シテ婚姻ノ當事者ヲレテ之ヲ取消ヲ請求ス

ルコトヲ得セシメタルモノナラン外國ニ於テ

其例多シトス然レトモ婚姻ノ當事者カ婚姻ヲ

為スニハ父母後見人等ノ同意ヲ經ヘキニテ

經スレテ隨意ニ婚姻シ而シテ後ニ至リ自ラ其

取消ヲ請求スルコトヲ得トスルハ却テ婚姻ヲ

輕視スルニ至ラシムルモノナルヲ以テ本案

法典調査會

ニ於テ之ヲ改メテ婚姻ノ當事者ニハ其婚姻ノ

取消ヲ請求スル權ナキコトニシタリ

同條ニハ父母後見人等ノ許諾アリタル場合ト

雖モ其許諾カ強暴ニ原因シタルトキハ父母後

見人等ハ其婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ト

シ許諾カ強暴ニ原因シタル場合ノニ其許諾ヲ





表

ル所請親権ヲ実セラレタル者ニシテ請求権

ヲ喪フヘキナリ從テ婚姻ノ當時ニ<sup>同条</sup>親権ヲ有

セザリシ者ニ婚姻ノ取消<sup>ヲ</sup>請求スル権ヲ喪フ

ヘキ理ナシ

第七百八十七條 前條ノ取消権ノ在場有

取消権ス

一親権権ヲ有セシ者カ婚姻アリタルニシテ<sup>法政調査會</sup>

親権ノ後又ニ詐欺ヲ登見ル者ハ<sup>法政調査會</sup>

親権ヲ喪フニシテ<sup>法政調査會</sup>

親権権ヲ有セシ者カ<sup>法政調査會</sup>

(參照) 八六二戸令線女弄妻條佛一八三團一四六二項三項伊  
一〇九瑞千八百七十四年十二月二十四日法五三白草一八  
八獨一章一二六三項一二六四同二章一二四四一項一二  
四五乃至一二五〇紐章五四三號五五七號

(理由) 本條ハ既成法典人事編第六十二條ニ修

正ヲ加(タルモノナリ)同條ニハ婚姻ノ許諾ヲ

唐

ル所請親權ヲ害セラレタル者ニノミテ請求權

ヲ與フヘキナリ從テ婚姻ノ當時ニ<sup>同条</sup>推テ有

セサリシ者ニ婚姻ノ取消<sup>ヲ</sup>請求スル推テ與フ

ヘキ理ナリ

第七百八十一條 前條ノ取消權ノ存 場存

推テ消滅ス

一親親權ヲ有セシ者カ婚姻アリタルニ

法典調査會

知~~ル~~後又ニ詐欺ヲ爲スル者ハ~~法律~~無効

且~~チ~~タル後六個月ヲ經過シタルトキ

一親親權ヲ有セシ者ヲ~~法律~~認テ爲シタルトキ

婚姻届出ノ日ヨリ三年ヲ經過セタルトキ

理由) 本條ハ既成法典人事編第六十二條ニ修

正ヲ加(タルモノナリ)同條ニハ婚姻ノ詐認ヲ

十步四十七段五九〇一五五  
五一至五〇五一段二〇二二  
四一第号初平日三十二月六年六

唐忌





ヒ  
B  
カ

與フヘキ者カ婚姻アリタルコトヲ知リシ後三

个月ヲ過キタルトキハ婚姻ノ取消ヲ請求スル

權ハ消滅スヘシ此場合ニ於ケル取消時<sup>ノ</sup>請求權

ノ消滅時效ヲ定メタルモ除暴ニ因リテ許諾ヲ

與ヘタル場合ニ関スル消滅時效ヲ定メサル欽

點アリタルヲ本條ニ於テ補定シ且本案前條

ニ於テ詐欺ノ為メニ<sup>同意</sup>取消<sup>ノ</sup>場合ニ

法典調査會

取消權ヲ喪ヘタルモノナルヲ以テ其消滅時

效ヲ定メ此等ノ修正増補ヲ為シテ本條第一號

ヲ生シタルモノトス消滅時效ノ期間ヲ六個月

ト改メタルハ三個月ニテハ短キニ失スル嫌ア

ルニ由レハナリ

同條第二號ニハ婚姻ノ許諾ヲ受クヘキ者カ婚



姻ノ成年ニ至リ又ハ死ニシタルトキハ取消  
 推ハ消滅ストシタルモ取謂婚姻上ノ成年ナ  
 モノノ意味頗ル不明ニシテ且如何ニテヲ解ス  
 ルモ此場合ニ取消推ヲ消滅セシムルハ本条ノ  
 主義ニ合セサルモノアリ又許諾ヲ受ク可キ者  
 カ死亡ニシタルトキハ取消推ハ消滅ストスルモ  
 理由ナキ取ナリ一旦生ニタル取消推ハ其取消  
 ノ影響ヲ受クヘキ婚姻者ノ死亡ニ因リテ當然  
 消滅スト言フハ理由ナキノ言ナリ或ハ婚姻者  
 ニシテ既ニ死ニシタルトキハ婚姻ハ自然ニ解  
 消スルヲ以テ最早ニテ取消スノ必要ナシト言  
 フ者アレトモ取消ト取消ノ差ヲ認ムトキハ婚  
 姻ノ解消シタル後モ尚之ヲ取消スノ必要

スルコトヲ解スルヲ得ベレ故ニ本案ニ於テハ

婚姻者カ死セシタル後モ亦尙<sup>本旨の存スル</sup> ~~其~~ 要~~キ~~

者ノ取消權ヲ存在セシムルコトトシ從テ既成

法典ニ於ケル左ノ規定ヲ全ク削除シタリ

本條第三號ヲ設ケタルハ婚姻ハ種々ノ事項ニ

關スルモノナルヲ以テ成ヘク其速カニ確定ス

ルヲ欲シ從テ之カ取消權ノ消滅スル時期モ普

通ノモノヨリモ輕縮セントシタルニ因ルナリ

第七百八十一條 詐欺又ハ隱匿ニ因リテ婚姻

ヲ爲シタル者ハ其婚姻ノ取消ヲ裁判所ニ請求ス

ルコトヲ得

前項ノ取消權ハ當事者カ詐欺ヲ從見シ若クハ

隠匿ヲ見シタル後ニテハ<sup>經内</sup> 又ハ<sup>匿認</sup>

法典調査會



第六三回 自序

(参照) 八六三六四佛一八〇一八一、漢五五乃至五九九四乃至九六、蘭一四二伊一〇五一〇六、葡一〇七二、瑞千八百七十四年十二月二十四日法二六五〇西一〇一二號三號一〇二、白草一四四一八四一八五、獨一章一二五九一號一二六一一號一二六三一項一二六五同二章一二四二一二四三一二四四

二十七

第八次

及七第

ウラへフク

婚ニ於テモ單ニ階級ニ基テ取消ヲ請フノコ

ナルモ本案ハ詐欺ノ場合ニモ婚姻ノ取消ヲ請

求スルコトヲ得セシメタリ外國ノ法律ニハ或

錯誤ヲ原因トシテ婚姻ヲ取消スコトヲ得セシ

法典調査會

ムルモノアリ又ハ婚姻ヲ契約ノ一ト看做シ

テ契約ノ取消シ得キ場合ニハ婚姻ヲ取消ス

コトヲ得ルモノトスルモアレトモ此ノ如キハ

婚姻ヲ取消スコトヲ得ル場合ヲ不審ニ指限ス

ルモノニシテ公益ニ害アルヲ以テ本案ニ於テ

ニテ採用セサリキ獨逸ニハ紐育ノ民法草案ハ

中七

國ニ附屬ノ異邦  
海軍船員ノ附屬  
第三十七号  
五五二一五二

九二

68

婚

為スニ因リテ消滅ス

参照

(理由)本條ハ既成法典人事編第六十三條及ヒ第

六十四條ヲ補修シタルモノナリ既成法典ハ此

場合ニ於テモ單ニ強暴ニ基テ取消ヲ言フノコ

ナルモ本案ハ詐欺ノ場合ニモ婚姻ノ取消ヲ請

求スルコトヲ得セシメタリ外國ノ法律ニハ或

錯誤ヲ原因トシテ婚姻ヲ取消スコトヲ得セシ

法典調査會

ムルモノアリ又ハ婚姻ヲ契約ノ一ト看做シ

テ契約ノ取消シ得キ場合ニハ婚姻モ取消ス

ストヲ得ルモノトスルモアレトモ此ノ如キハ

婚姻ヲ取消スコトヲ得ル場合ヲ不審ニ擴張ス

ルモノニシテ公益ニ害アルヲ以テ本案ニ於テ

之ヲ採用セサリキ獨逸及ヒ紐育ノ民法草案ハ

中





殆ト本案ト等レ

次ニ既成法典ハ婚姻ノ取消権ハ男女同居シタ

ルトキハ二ヶ月ニテ消滅シ同居セサルトキハ

一年ヲ以テ消滅ストレ同居ノ有無ニ因リテ

取消ノ存続期間ニ差異ヲ附シ其例外國ニ存在

見ル所ナルモ本案ハ同居ノ有無ヲ問ハス消シ

テ三ヶ月トシ其起算點ヲ當事者カ詐欺ヲ發見

時

シタルトキ差クハ強迫ヲ免レタル時ト定メタ

リ

當事者カ婚姻ヲ追認スルニ因リテ取消権ハ消

滅ストスルハ既成法典モ本案モ同シキ所<sub>下</sub>レ

トモ既成法典追認ハ明示ノモノタルヲ必要ト

シタルヲ本案ニ於テ默示ノモノタルモ可ナリ

トスルノ差アリ

法典調査會



第七百八十六條

（参照）人一三三

（理由）本案、既成法典、人事編、第百三十三

條ト其趣旨ヲ同シクシ之、些ナク修正ヲ

加ヘタルニ由キス、其第一點ハ縁組ノ無效又ハ

取消ノ請求ニ附帶シテ婚姻ノ取消ヲ請求ス

法典調査會

ルコトヲ妨ケストシテ ~~養子關係~~ 養子關係 ~~ハ~~ 概

時ニ起 ~~マ~~タル後尚ホ當地關係ノ繼續スル

カ如キ不都合ヲ避クルノ便宜ヲ得セシメタリ

其第二點ハ既成法典ハ無效言渡ノ時ヨリ

三個月ノ期間ヲ計算セルモ本案ハ三ヶ月メ

テ算ヲ知りタル時ヨリ計算トスルコトトシ

無効又ハ取消

あ

71 婚

且之、取消權ヲ抵棄シタル場合ヲ加ヘテ  
<sup>蓋シ</sup>ルニテ、其理由、如キハ別ニ説明ヲ要セス  
ニテ明カナリ

法典調査會

から



七卷

第七百八十八條 婚姻ノ取消ノ要件ニ於テ

ハ

婚姻ノ當時其取消ノ原因ノ存スルニシテ

ハ其取消ノ原因ニ因リテ財產ヲ得ル

ノ現ニ利益ヲ得ルハ是レ其返還ノ義務

ヲ負フ

法典調査會

婚姻ノ當時其取消ノ原因ノ存スルニシテ

ハ其取消ノ原因ニ因リテ財產ヲ得ル

善意

(參照)八六六九年六月二十三日太政官指一同七月十七日內務省指一、佛二〇、二〇二、二、一五〇乃至一五三、伊一一六、葡一〇九一乃至一〇九五、瑞千八百七十四年十二月二十四日法五五、西六九七、二、白草一九五、獨一章一二五七、一二五八、一二六〇、一二七〇、阿二章一二三六、一二三七、一二五二、一二五二加八四八、六、紐章三九五、六、五八

理由)本條ハ既成法典ノ事編第六十六條ニ相背

スレトモ其規定ノ實質ニ於テ改メタル點ニ既

九ノ卷ノ目録

第七百八十八條 婚姻ノ原因ノ其後有テ既律

ノ事トス

婚姻ノ當時其取消ノ原因ノ存スルニシテ

ノ事トス 當時其取消ノ原因ノ存スルニシテ

ノ事トス 當時其取消ノ原因ノ存スルニシテ

ノ事トス

法典調査會

婚姻ノ當時其取消ノ原因ノ存スルニシテ

ノ事トス 當時其取消ノ原因ノ存スルニシテ

ノ事トス 當時其取消ノ原因ノ存スルニシテ

ノ事トス 當時其取消ノ原因ノ存スルニシテ

參照

理由 本條ハ既成法典ノ事編第六十六條ニ相

スレトモ其規定ノ實質ニ於テ改メタル點ニ

四月三十一日 第三六一二一號  
百二十寺 同十七日 百二十八號  
一冊 兼 送 女 五 百 二 十 二  
ル ヲ ヲ 兼 二 寺 五 五 果 重 里  
選 取 カ 者 ヲ 有 三 縣 器 里 外  
キ 十 九 ヲ ヲ 縣 器 ヲ 月





渡辺

成法典ニハ婚姻ヲ取消シタル後モ子ノ身方ニ  
 関シテハ之ヲ有致トスト規定シタル<sup>ニ</sup>本案ニ於  
 テハ總テ場合ニ於テ婚姻ノ取消ハ其效ヲ既  
 往ニ及ホサカルモノトシ子ニ関シテモ親ニ関  
 シテ取消前ノ婚姻ハ之ヲ有致トシタリ外國ノ  
 法律中ニハ畜養者中善意ノ者ニ對シテハ取消  
 ノ效ヲ既往ニ及ホサンメスレテ正當ノ夫妻ノ  
 ハ妻タラシメ善意ノ者ニ對シテハ其效ヲ溯ラ  
 シメテ之ヲ私通ノ男差クハ女トスルモノアリ  
 ト雖モ此ノ如クスルトキハ正當ノ妻ニ私通ノ  
 男アリ~~母~~ハ正當ノ~~母~~ニシテ子ハ正當ノ~~嫡子~~タ  
 リ而シテ父ト為ルヘキ者ナキカルキ愛体ヲ生  
 スル  
 又コト多カルヘキヲ以テ理論上ノ是非ハ斷

法典調査會



ラク措キ総テノ者ニ對シテ取消ノ效ヲ既任ニ  
及ホサシメナカリシナリ

尚既成法典ニハ財産ニ関レテ何等ノ特例ヲモ

定メサルヲ以テ解<sup>釋</sup>上婚姻ノ取消ハ財産ニ関

シテハ其效オラテ悉ク既任ニ及ホスヘキコトト

為リ當事者ノ各自ヨリ婚姻中ニ得タル物ヲ悉

ク返還シ其他終テ舊狀ニ復スヘキニ至リ頗ル

法典調査會

混雜ヲ生スルヲ以テ本案ニ於テハ財産上ノ関

係ニ就テモ取消ハ其效ヲ既任ニ及ホサストシ

テハ混雜ヲ避ケ唯不法行為不當利得等ノ原則

ニ基キ各自ノ返還スヘキモノヲ定メララテ本

條第二項及ヒ第三項ニ規定シタルナリ中ニ就

キ善意ノ當事者ト要スノ尙事者トテ區別シ善

渡

第三章 婚姻

理由既成法典人事編第三章ノ婚姻是也

才才才之規定ハ本章ノ第三章ニ該章ニ相當ス

レトモ其節款ノ方類及ヒ規定ノ實質ニ至リテ

テハ本改正ヲ加ヘタル<sup>點劃シトセズ人律條第三章ノ之</sup>才七節ニ分

ケテ第一節婚姻ヲ為スニ必要ナル條件第二節

婚姻ノ儀式第三節日本人外國ニ於テ為シ外國<sup>及ヒ</sup>

人日本ニ於テ為ス婚姻第五節婚姻ノ不成立及

ヒ無效トシタルヲ一括シテ第一節婚姻ノ成立<sup>第六節婚姻ノ效力第六節附則</sup>

トシ第四節婚姻成立ノ證據トセルモノヲ廢シ

其規定ノ實體ハ特ニ本章ニ規定スヘキモノ及

ヒセテ規定スルヲ便トスルモノノミヲ採集シ

テ他ハ悉ク之ヲ證據法其他ノ法令ニ讓ルコト

婚

第四節 婚姻成立ノ證據

法典論 卷一



トシタリ而シテ既成法典ニ於テ第ニ節テ婚姻ノ

效力ト題セルヲ本章ニ於テ第ニ節トシタリ其

第七節罰則ト題スルモノノ如キハ之ヲ民法中

ニ規定スルノ要ナシトシテ三〇削除セリ

既成法典ハ第四章婚姻第五章離婚トシ婚姻ト

離婚トシテ方々テ規定セリ理由ナキニ非サルモ

離婚ハ亦畢竟婚姻ノ效力ヲ失フ一原因トシテ

法典論者會

五ヲ觀察スルコトヲ得ルモノナルヲ以テ婚姻

ノ章中ニ置クヲ寧ク便ナリトス即ケ本章第三節

四節離婚ノ表題ヲ設クル所以ナリ第三節夫婦

財産制ハ既成法典人事編ニ之ヲ見ルヲ得スレ

テ却テ財産取得編第十五章ニ之ヲ見ル財産ニ

関スル規定ナルヲ以テ財産法ノ中ニ置クハ其

故ナキニ非ス且外國ニモ其例アル所ナルヲ以

テ或ハ其儘ニテモ可ナランカナレトモ夫婦ノ

財産制ハ夫婦ノ身分ニ関スル所頗ル多ク身分

ニ関スル事項ハセテ親族法中ニ規定スルヲ至

儘トスルヲ以テ~~ハ~~之ヲ本章中ニ規定スル

ト然レトモ夫婦ノ財産制ニ~~付~~キ其身

方ニ関スルモノト財産ニ関スルモノトヲ明カ  
法典調査會

ニ分別シテ之ヲ別個ノ編章ニ置クハ當ニ至難

ノ事タルノミナラス却テ實際ニ不便ヲ来スヘ

キヲ慮カリ一摺シテ本章中ニ置キタルナリ~~ト~~

婚姻ノ效力ト見ルヲ得ヘキモノト~~ト~~唯事多ク

財産ニ関スルヲ以テ第二節婚姻ノ效力ノ下ニ

規定スルヲ得スレテ獨立ノ一節ヲ設ケタルナ



第一節 婚姻ノ成立

理由本節ニハ婚姻ノ要件ト婚姻ノ無效及ヒ取  
消トニ關スル規定ヲ掲ク既成法典ニ婚姻成立  
ノ證據ヲ規定セルモ本案ニ之ヲ採ラザリシハ  
既ニ述ヘタルカ如シ尙少シク之ヲ詳細ニ説明  
セシ既成法典ニハ第四節婚姻成立ノ證據トシ

法典調査會

テ二個ノ條文ヲ掲ケタリ事ハ證據ニ關スルモ  
苟モ婚姻ノ規定ニ密接ノ關係ヲ有シテ必ス民  
法ニ掲ケサルヘカラス且十分ニ規定スルコト  
ヲ得ルニ於テハセテ民法ニ掲ケモ可ナレトモ  
既成法典ニ掲ケタル條文規定セルモノヲ見ル  
モ必スレモ民法ニ掲クルヲ要スルモノニ非ス

不婚

又之ヲ掲クルモ他ニ特別法ノ規定ナキトキハ

殆ト何等ノ~~用~~ヲモ為ササルモノナルヲ以テ寧

ロ金ク之ヲ證據法戸籍法等ノ特別法ニ安スル

ヲ可トシタルナリ

第一款 婚姻ノ要件

理由本款ハ主トシテ既成法典ノ第一節及七第

二節ニ該當ス其既成法典ノ條文ヲ改メタル點

法典調査會

ハ各~~ノ~~下ニ之ヲ明カニス

第七百六十~~五~~條 男、満十七歳、女、満十歳

(参照) 八三〇刑三四九戸令明年十五條太閤之式目二七改定  
律例二六〇九年七月十四日山梨縣ニ對スル内務省指同日  
山形縣ニ對スル内務省指十五年八月三十一日内務省指十  
七年二月十三日内務省訓示十八年四月十七日内務省指十  
九年四月二十七日司法省指佛一四四一四五澳二一四八  
關八六伊五五六八二項葡一〇七三一項四號瑞千八百七十  
四年十二月二十四日法二七一項西八三一號白草一四一號  
一章一二三三四二章一、二〇九加五六紐章三六

我國從來

ハ各~~ノ~~下ニ之ヲ明カニス

年未滿ノ女子ニシテ婚姻スルモノアリシモ婚



法の

又之ヲ掲クルモ他ニ特別法ノ規定ナキトキハ  
殆ト何等ノ~~甲~~ヲモ為ササルモノナルヲ以テ寧  
口金ク之ヲ證據法戶籍法等ノ特別法ニ委スル  
ヲ可トシタルナリ

第一款 婚姻ノ要件

不婚

理由本款ハ主トシテ既成法典ノ第一節及七第

二節ニ諷當ス其既成法典ノ條之ヲ改メタル點

法典調査會

ハ各~~ノ~~下ニ之ヲ明カニス

第七百六十~~五~~條 男、満十六歳、女、満十歳

ニ至ラザルハ婚姻~~ノ~~爲~~ニ~~不適格ナル

参照

理由(既成法典人事編第三十條ニ同シ)我國從來

ノ慣習ハ區區トシテ一定セズ甚タレキハ十二

年未滿ノ女子ニシテ婚姻スルモノアリシモ婚

與ノ縁通~~ハ~~ニ縁通~~ハ~~  
又縁通~~ハ~~ニ縁通~~ハ~~  
擲ノ擲照~~ハ~~字 擲三  
章二回五三二二四三二  
冠第一回一〇二六日回  
第一三〇一册六五回  
二十回一册五章

身未滿ノ女子ニ

一ノ身未滿ノ女子ニ

理由既成法典ノ事

理由既成法典ノ事

第七百六十六條

各ハ條ノ明

二部ニ訣密ノ其既成法

理由本款ハ主トテ既成法

第一條ノ始

三馬ノトテハ

口金ノヲテテノ據法

理由トテテテテ

大ニテテテテテ

本取旨第一回七月十七日內務省一併一四ノ事

伊五六番一〇七三一項五號瑞千八百七十四年十二

四日法二八一項一號西五一八三五號白草一四五第

二三四一二三五回二草一二一五加五六六一紐草三

三條 女ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ後六个月内

爲スコトヲ得ス

ノ解消又ハ取消ノ前ニ懷胎セシ場合ニ於テハ

三ノ



トキキ

婚

姻年數ヲ限定スル法令ナキカ為メニ行政官廳  
 ハ之ヲ如何トモスルヲ得サリシナリ然レトモ  
 早婚ノ弊ハ何人モ認ルル所ニシテ而シテ醫家  
 ノ説ニ~~因~~<sup>依</sup>レハ我國人ノ婚姻年數ハ男十七年女  
 十五年ニ達スレハ可ナリトスルニアルヲ以テ  
 既成法典ニ於テ第三十條ノ規定ヲ設ケタルヲ  
 本案ニ於テ採用シタルナリ 外國ニハ種々ノ例  
 アレトモ外國人種ト我國人種トノ間ニ異ナル  
 所アルヲ以テ此種ノ規定ニ關シテハ外國ノ法  
 令ヲ摸スヘキニ非ス

法典編纂會

第七百六十七條 ~~配偶者アル者ハ重婚ニシテ婚姻~~

(參照) 八三一刑三五四戸婚律有妻更娶條和娶人妻條  
 御定書百个條四八八年一月二十八日司法省指九年六月二  
 十三日太政官指一阿七月十七日內務省一佛一四七澳六二  
 蘭八四伊五六葡一〇七三一項五號瑞千八百七十四年十二  
 月二十四日法二八一項一號西五一八三五號白草一四五第  
 一章一二三四一二三五同二章一二一五加五六六一紐章三  
 六四〇

同シ一夫一

トキキ

婚

姻年數ヲ限定スル法令ナキカ為メニ行政官廳

ハ之ヲ如何トモスルヲ得サリシナリ然レトモ

早婚ノ弊ハ何人モ認ル所ニシテ而シテ醫家

ノ説ニ~~因~~<sup>原</sup>レハ我國人ノ婚姻年數ハ男十七年女

十五年ニ達スレハ可ナリトスルニアルヲ以テ

既成法典ニ於テ第三十條ノ規定ヲ設ケタルヲ

本案ニ於テ採用シタルナリ外國ニハ種々ノ例

法典調査會

アレトモ外國人種ト我國人種トノ間ニ異ナル

所アルヲ以テ此種ノ規定ニ關シテハ外國ノ法

令ヲ摸スヘキニ非ス

第七百六十七條 配偶者~~カ~~者、~~其~~者~~ニ~~婚姻

ノ為ニ得ス

（~~本~~）

理由 既成法典人率編第三十一條三同シ一夫一

4

第二十一  
第一章 第二節  
第一條 第二項  
第二條 第一項  
第三條 第一項  
第四條 第一項  
第五條 第一項  
第六條 第一項  
第七條 第一項  
第八條 第一項  
第九條 第一項  
第十條 第一項  
第十一條 第一項  
第十二條 第一項  
第十三條 第一項  
第十四條 第一項  
第十五條 第一項  
第十六條 第一項  
第十七條 第一項  
第十八條 第一項  
第十九條 第一項  
第二十條 第一項  
第二十一條 第一項





八百五十七  
△  
△  
△

參照八三二大化二年三月詔戶與律屋夫喪毀籍戶命結  
已定條喪葬令服紀條貞永式目二四新編追加三二六三二八  
三三〇廳政談御定書百餘四四新律綱領戶婚律臣父母夫  
喪條五年十月七日太政官指六年三月三日太政官指同六月  
二十日太政官指同七月十四日太政官指三同月十五日太政  
官指同八月十二日太政官指同九月十二日太政官指同十月

山路

十四日太政官指七年一月二十九日太政官指同二月三日太  
政官指同月二十日太政官指三同四月二十日太政官指同月  
二十五日司法省指同五月十九日司法省指同七月二日太政  
官指同月五日太政官指同月七日司法省指八年二月十三日  
太政官指同月二十五日內務省指同三月八日內務省指同四  
月二十四日內務省指同月二十七日内務省指同六月四日内  
務省指同七月十八日太政官指同月三十日太政官指同八月  
七日內務省指同九月八日太政官指同月九日内務省指同月  
十四日盤前縣五月四日伺二對スル內務省指同日同縣五月  
二十日伺二對スル內務省指同月二十二日內務省指同月二十九  
日師磨縣二對スル內務省指同日宮城縣二對スル內務省指  
同十二月八日太政官指同月十四日內務省指同月十七日內  
務省指同月二十二日內務省指同月二十七日太政官指同月  
二十八日內務省指九年二月九日內務省指同三月內務省指  
同四月十日內務省指同月十二日內務省指同六月五日太政  
官達五八號同月二十三日太政官指同七月一日內務省指同  
月八日內務省指同月十七日內務省指同八月二十四日內務

婚



四

省指同十一月二日内務省指同月二十日太政官指十年一月二十日長崎縣ニ對スル内務省指同日東京府ニ對スル内務省指同二月五日内務省指同月九日内務省指同月十二日太政官指同三月二日内務省指同六月十三日内務省指同月十四日内務省指同月二十六日内務省指同九月十二日太政官指同十月十六日内務省指同十一月六日内務省指同十二月二十八日太政官建九九號十一年一月二十一日内務省指同二月二十六日内務省指同三月十一日内務省指同月二十日内務省指同四月三十日内務省指同五月二十二日内務省指同七月二十四日内務省指同月三十日内務省指同八月十七日内務省指同月二十二日内務省指同十月二十六日内務省指同十二月二十五日内務省指同八月八日内務省指同九月十五日内務省指同十一月二十八日内務省指同十三年四月十九日内務省指同五月八日内務省指同七月十三日内務省指同十月二十一日内務省指同月二十六日内務省指同十四年一月二十四日内務省指同三月二十三日内務省指同八月二十二日内務省指同十月二十九日内務省指同十五年五月十一日内務省指同六月十七日太政官指同八月九日内務省



甲第五十號

明治二十八年十二月十三日配付

第三章 婚姻

第一節 婚姻ノ成立

第一款 婚姻ノ要件

廣加

捐同九月二十六日內務省捐同十月六日內務省捐十六年三月二十二日內務省捐同四月五日內務省捐同六月十四日內務省調示同七月二十一日內務省捐十七年一月二十一日內務省捐同月二十九日太政官捐同二月十三日內務省捐同月二十日內務省捐十八年三月十二日內務省捐二十九年四月二十九日司法省捐同八月二日司法省捐同月九日司法省捐同月二十日司法省捐同十月二十六日司法省捐同月三十日司法省捐同十二月十四日新潟縣<sub>ニ對スル</sub>司法省捐同日長野縣<sub>ニ對スル</sub>司法省捐二十年一月七日司法省捐同月二十八日司法省捐同三月二十二日司法省捐同五月三日司法省捐同月十二日司法省捐同六月十日司法省捐同十月七日澁賀縣<sub>ニ對スル</sub>司法省捐同日福井縣<sub>ニ對スル</sub>司法省捐同月二十七日司法省捐同十一月三十日司法省捐同十二月五日司法省捐二十一年一月二十三日司法省捐同月二十七日司法省捐同五月十二日司法省捐同十二月二十五日司法省捐二十二年四月十一日司法省捐同月十六日司法省捐同月十九日司法省捐同月二十三日司法省捐同月三十日司法省捐同五月一日司法省捐同月七日司法省捐同月十一日司法省

婚



指同月十七日司法省指同月二十三日司法省指同月三十日  
 司法省指同七月五日司法省指同月十日大審院判決同十二  
 月二十八日司法省指二十三年一月十五日司法省指同月二  
 十三日司法省指同二月十三日司法省指同月二十三日司法  
 省指同七月十七日司法省指同年內務司法兩省指二十四年  
 九月司法省指同年內務司法兩省指二十五年三月司法省指  
 二十六年六月司法省指同十月司法省指二十七年十月司法  
 省指二十八年一月司法省指同五月司法省指佛二二八二九  
 六澳一二〇一二一葡九一伊五七葡一二三三一二三五一二  
 三七一二三八瑞千八百七十四年十二月二十四日法二八二  
 項四八西四五二號八五白草一四六葡二草一二一九

百七十四條 婚姻中後通シタル妻ハ其婚姻解消

ノ後發夫ト婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

(參照)八三三戶令先許後娶條九年六月二十三日太政官指二  
 同七月十七日內務省指二十四年九月二十八日內務省指十  
 九年十月六日司法省指佛二九八澳六七六一一九葡八九

9 婚

七七三

(婚姻)

婦ノ制ヲ採リシナリ

第七百六十條 ~~一~~ 前婚ノ解消又ハ取消ノ

後六个月内ニ再婚ヲ為スル者ハ得ズ

又ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ前ニ懐胎スル婦

モ其ノ婚ノ日ヨリ前婚ノ規定ヲ適用ス

(理由)本條ハ既成法典ハ人事編第三十二條ノ規定

法典調査會

ニ該當シ二個ノ點ニ於テ修正ヲ加ヘタリ

一同條ニハ女ハ前婚解消ノ後六个月内ニ再

婚ヲ為スコトヲ得ストシ六个月内ニ再婚

ヲ為スヲ得サルヲ婚姻ノ解消ニタル場合

ニ限リタルヲ本案ニ於テ取消ノ場合ヲモ

加ヘタリ一般ノ原則ニ依ルトキハ法律行

中二四



法典調査會

為ノ取消ハ既ニ溯リテ其效ヲ生スルモ  
 ノナレトモ 婚姻ノ取消ニ限リテ其效ヲ既  
 往ニ溯ラシメカルヲ以テ實際ノ效力ニ至  
 リテハ取消ト解消トノ間ニ殆ト差異ナキ  
 ニ至リ從テ再婚ノ時期ニ關スル規定ヲ  
 大同トシタリ伊太利<sup>民法</sup>獨逸<sup>自耳義</sup>  
 民法草案等ニ於テ此例ヲ見ル  
 二同様ニハ夫ノ失踪ニ原因スル離婚ノ場合  
 ラ除ク外女ハ三々トシテ<sup>熟慮</sup>上<sup>此場合</sup>  
 ヲ例外トシ夫ノ失踪ニ原因スル離婚ノ際  
 ニハ女ハ直クニ再婚ヲ為スコトヲ得ルモ  
 ノトシタルヲ本案ニ之ヲ改メ此場合ヲモ  
 例外トセス女ハ六个月内ハ決シテ再婚ヲ

法典調査會

為スコトヲ得サルモノトシタリ既成法典  
 ニ於テ失踪ノ場合ヲ例外トシタルハ蓋シ  
 失踪ノ宣告ハ夫カ其家ヲ去リテヨリ早く  
 ト<sup>ト</sup>モ數年ノ後ニ非サレハ之ヲ<sup>得</sup>スヲ得サル  
 モノナリ家ヲ去ルコト數年ナルニ於テハ  
 夫婦ノ同居スルコトナク從テ婦ノ懐胎ス  
 ルコトナシト言フニアラシクナレトモ家  
 ニ在ラス夫婦同居セストハ證據ノ問題ニ  
 歸スルヲ以テ事實上<sup>シ</sup>同居<sup>ヲ</sup>得ルモ之ヲ  
 證明<sup>シ</sup>スル<sup>ニ</sup>難キ場合アリテ偶他人ノ血統ヲ亂  
 ルノ虞ナレトセサルヲ以テ此場合ニ於テ  
 毛亦等シク六个月内ハ再婚スルヲ得サラ  
 シムルヲ可トス決シヤ又<sup>若シ</sup>或場合ヲ採



鳥田

リテ直々ニ再婚ヲ許スヘキモノトスレハ  
 決シテ之ヲ失踪ニ原因スル離婚ノ場合ニ  
 之ヲ限ル理ナク夫カ重禁錮一年以上ノ刑  
 ニ處セラレ又ハ悪意ノ遺棄ヲ為シタルニ  
 因リテ離婚ノ生シタル場合ニモ婦ノ直々  
 ニ再婚スルヲ許ササルヘカラス何レニス  
 ルモ失踪ノ場合ヲ本條ノ例外トスルノ理  
 由ナキヲ以テ此點ニ改正ヲ加ヘタルモノ  
 トス

法典調査會

本條ノ期間ヲ六个月トシタルハ醫家ノ所説ヲ  
 参照シタル所多シ或ハ之ヲ十个月トシ或ハ之  
 ラ四个月トスルモノアルモ一ハ長キニ失ヒテ  
 婦ノ再婚ヲ妨クルコト多ク又一ハ短キニ失ヒ

日勝

ラ殆ト期間ヲ設ケタル精神ヲ貫クヲ得サルニ  
因リ中ヲ取リテ六ヶ月トシタルナリ既成法典  
ノ期間ト同一ナルヲ以テ深ク其立法ノ理由ヲ  
述ヘサルヘシ

第七百六十九條

婚姻自由 各省ノ官署

參照入三三戸令先軒後娶條九年六月二十三日太政官指二  
同七月十七日內務省指二十四年九月二十八日內務省指十  
九年十月六日司法省指佛二九八澳六七六八一—九蘭八九  
伊六二葡一〇五八三號四號西八四七號八號白章一四七號  
二章一二一八加六一一號紐草四〇一號

婚姻

法典 譯 本 會

19 婚

法律家

理由 本條ハ既成法典人事編第三十三條ニ二個

イ修正ヲ加ヘタルモノナリ同條ニハ離婚ノ裁

判ヲ言渡サレタル曲者ト稱シテ其曲者ノ夫々

リ妻タルヲ謂ハサルモ我國從來ノ慣習ニ現

在ノ事情ニ於テ未タ批點ニ関シテ男女ヲ同一

規定ノ下ニ置クヲ得サルニ依リ本案<sup>\*</sup>於テハ



日勝

ヲ殆ト期間ヲ設ケタル精神ヲ母クテ得サルニ  
因リ申テ取リテ六ヶ月トシタルナリ既成法典  
ノ期間ト同一ナルヲ以テ深ク其立法ノ理由ヲ  
述ヘサルニ

第七百六十條

婚姻

自由

雜質ノ有キ

明治十一年法律第二十號  
民法第一編第一章第二節  
第一千二百三十四條  
第一千二百三十五條  
第一千二百三十六條  
第一千二百三十七條  
第一千二百三十八條  
第一千二百三十九條  
第一千二百四十條

又、~~本條ハ既成法典ノ精神ヲ母クテ得サルニ~~  
~~因リ申テ取リテ六ヶ月トシタルナリ既成法典~~  
~~ノ期間ト同一ナルヲ以テ深ク其立法ノ理由ヲ~~  
~~述ヘサルニ~~

七五〇條

理由本條ハ既成法典人事編第三十三條ニ二個

イ修正ヲ加ヘタルモノナリ同條ニハ離婚ノ裁

判ヲ言渡サレタル曲者ト稱シテ其曲者ノ夫々

リ妻タルヲ問ハサルモ我國従来ノ慣習及ヒ現

在ノ事情ニ於テ未タ此點ニ関シテ男女ヲ同一

規定ノ下ニ置クテ得サルニ依リ本案~~ニ~~於テハ

法典調査會

規定ノ下置クマシテ得ルハ  
 在ノ事ノ情ニ於テ未ク其狀  
 リ事ハハカニハカニハカニ  
 判クシテ其ノ下置クマシテ  
 入修正ノ加クマシテハカニ  
 理由本條ハ條ノ成ルニ事  
 事  
 事

其二十六日內務省指同十月六日內務省指十六年三  
 一日內務省指同四月五日內務省指同六月十四日內  
 平同七月二十一日內務省指十七年一月二十一日內

第百六十六條  
 此ノ事ハハカニハカニハカニ  
 期同ト期同ト期同ト  
 因リ中ヲ取リテハカニハカニ  
 期同ト期同ト期同ト



り

特ニ妻ニ限リ姦夫ト婚姻ヲ為スラ得サルモノ

トシタリ次ニ同條ニハ離婚ノ裁判ヲ言渡サレ

タル場合ニノミ本條ノ適用ヲ限レルモ苟クモ

妻ハ他ノ男子ト姦通シテ刑ヲ受ケタリトセハ

姦通ニ因リテ離婚セラレタル場合ト否トラ問

ハス後ニ至リ其姦夫ト婚姻スルヲ得サラレハ

ルヲ可トス是レ本條ニ於テ姦通ニ因リテ刑ニ

法典調査會

處セラレタル姦ハ其姦夫ト婚姻ヲ為スコトヲ

得スト増加シタル所以ナリ其必ス刑ニ處セラ

ルルヲ要シタルハ假令姦通ノ行為ハ國家ノ善

良ノ風俗ヲ害スルモノタルニ相違ナキモ事ハ

家内ノ細微ニ涉リ之ヲ摘發スルトキハ平地ニ

波ヲ生レテ却テ風俗ヲ害スルノ虞アルヲ以テ

14のめ

婚姻ノ能力ヲ剥奪スル場合ヲモ刑ニ處セラル  
タル場合ニ限リシモノトス

姦通ニ因リテ離婚ノ宣言ヲ受クルモ刑ニ處セ

ラシサルコトアラン又刑ニ處セラルルモ離婚

セラレス後ニ他ノ原因ニ因リテ離婚セラルル

カ或ハ夫死シテ寡婦トナルコトアラン何レノ

場合ニ於テモ其妻ハ夫ト婚姻スルヲ得サル

法典調査會

モノトス

44

第七百十九條

直系血族間ニ於テハ婚姻ヲ

得

傷系ノ三親等内亦同但養子及養親ノ親族ト

間ハ此限ニ在ラス

生(赤)思

4理由(本條ハ既成法典人事編第三十四條及び第



16

婚

七名  
ラ  
の  
字

X  
ル

本  
本

第七百七十五條

伊六三葡一〇五八三號及號西八四七號八號白一四七號  
 二章一〇二八加六一號雜草四六一號  
 直系の血族に於てハ婚姻ヲ爲スコト  
 ヲ得ズ  
 傍系三親等内亦同シ但養子ト養親ノ親族ノ間ハ此  
 限ニ在ラス

參照入三四三五新律綱領犯姦律親族相姦條改定律例二六  
 一六年八月十二日太政官指回月二十七日太政官指回十月  
 三十一日太政官指七年二月十四日司法省指回五月八日太  
 政官指回七月七日太政官指回九月十二日太政官指八年二  
 月十二日太政官指回三月八日內務省指回十二月四日內務  
 省指回月二十五日茨城縣ニ對スル內務省指回日長崎縣ニ  
 對スル內務省指回九年二月二日太政官指回六月二十七日內  
 務省指回九月四日太政官指回月十一日太政官指回月二十  
 二日內務省指十年二月七日內務省指回六月十三日內務省  
 指六回月二十日內務省指回月二十二日內務省指回九月二  
 十四日內務省指回十二月二十四日法制局回答十一年一月

十九日內務省回答同六月五日內務省指同七月五日內務省  
指同八月二十六日內務省指同十一月三十日內務省指同十  
二月二日內務省指同月二十七日內務省指同十二月三十日  
內務省指同五月十四日內務省指同月三十一日內務省回答  
十三年十月六日內務省指同月十五日內務省指同四月五月  
六日內務省指同六月十五日內務省指同月十八日內務省指  
同九月十六日內務省指同十五年四月十八日內務省指同七月  
二十二日內務省指同九月二十八日內務省指同十六年六月九  
日內務省指同月十五日愛知縣ニ對スル內務省指同日新潟  
縣ニ對スル內務省指同九月二十二日內務省指同十七年六月  
十六日戶籍局照會同九月十一日愛知縣何ニ對スル內務省  
指同十八年一月二十九日內務省指同四月二十四日內務省指  
同十九年四月二十七日司法省指同十二月十四日司法省指二  
十年九月十六日司法省指同十一月一日司法省指同十二月  
九日司法省指二十一年一月二十四日何ニ對スル司法省指  
同四月二日司法省指同七月十日司法省指同十二月十三日  
司法省指同月二十六日司法省指同月二十八日司法省指二  
十二年三月二十九日司法省指同四月一日司法省指同月二



17

婚

ナナ、一

十三日司法省指同五月二十九日山梨縣ニ對スル司法省指  
 同日千葉縣ニ對スル司法省指同六月十九日司法省指同月  
 二十五日司法省指同九月十九日司法省指同十一月五日司  
 法省指同月二十四日司法省指同十二月二十三日司法省指  
 同月二十五日司法省指二十三年二月二十一日司法省指二  
 十四年三月三日司法省指同十一月司法省指同十二月司法  
 省指二十五年九月司法省指二十六年六月司法省指二十七  
 年三月司法省指同十月司法省指二十八年二月司法省指佛  
 一六一乃至一六四三四八澳六五一二五蘭八七八伊五八  
 乃至六〇六八一項葡一〇七三一項一號乃至三號二項瑞千  
 八百七十四年十二月二十四日法二八二項二號西八四一號  
 二號四號乃至六號八五白草一四八乃至一五〇獨一章一二  
 三六同二章一二一六一二一七加五九紐草三八

四月五日  
省損同七月二十五日內務省損同九月四日太政官損同月十四日太政官損同月二十二日內務省損同月二十五日內務省損十年二月七日內務省損同六月十三日內務省損同八月二十七日內務省損同月二十九日內務省損同十二月十二日內務省損同月十四日內務省損十一年一月二十九日內務省損同七月五日內務省損同八月二十六日內務省損同四月二十四日內務省損十二年一月二十九日內務省損同四月二十六日內務省損同五月十四日內務省損同九月十五日內務省損同十二月二十五日內務省損十三年一月十五日太政官損同五月二十四日內務省損十四年六月十八日內務省損同九月十六日內務省損十五年四月十八日內務省損同六月十七日太政官損十六年五月二十三日太政官損同十二月二十日內務省訓示十七年一月二十九日太政官損同日內務省損同



佐々木

三十五條ヲ併合シタルモノナリ第一項ハ第三  
 十四條ニ當リ第二項ハ第三十五條ニ當ル同條  
 ニハ兄弟姉妹伯叔父等ト列擧シタルヲ改メテ  
 代フルニ傍系ノ三親等トシテ之ヲ改メタルハ  
 文字上ノ修正ナリトス規定ノ實質ヲ改メタル  
 ハ第一項ノ但書ヲ撤入シタル點ニアリトス曰  
 ヲ養子ト養親トノ間ハ此限ニ在ラスト即チ養  
 子ト養親ノ親族トノ間ニアリテハ兄弟姉妹及  
 ヒ叔姪ノ間ニアリテモ婚姻スルコトヲ許スモ  
 ノナリ既成法典亦或ハ之ヲ許スノ主意ナリシ  
 ナカシカナレトモ既ニ人律編第二十二條ニ於  
 テ養子縁組ハ養子ト養父母及ヒ其親族トノ間  
 ニ親族ニ同レキ關係ヲ生ストレ而シテ第三十

法典調査會

法字

五條ニ於テ血縁ニ基ク兄弟姉妹タルト縁組ニ  
因レル兄弟姉妹タルヲ區別シテ兄弟姉妹等ノ  
間ニ婚姻ヲ禁シタルヲ以テ解釋上養子ト養親  
ノ親族トノ間ニアリテモ三親等内ハ婚姻ヲ為  
スコトヲ得サルモノトナルハ亦止ムヲ得サル  
コトタリ

我國従来ノ慣習ハ養子ト養親ノ親族トノ間ニ  
法典調査會

アリテモ三親等内ハ婚姻ヲ許セサルヲ原則ト  
シタルカ如シト雖モ實際ノ必要ニ迫ラレテ  
許シタルノ例ハ組新以後ニ<sup>左</sup>リテモ頗ル多シ  
養子ノ妻死シタル後亡妻ノ姉妹ト婚姻シ又ハ  
其伯叔母ト婚姻スルカ如シ一旦~~又~~兄弟姉妹等  
ノ名ヲ附シタル者ノ間ニ婚姻~~ト~~スルハ其伯叔母



ニ於テ母當ナラストシテ或ハ其家ノ姉妹ヲ一

日他家ノ養子女トシ或ハ養子ヲ一日離縁シテ

兄妹ノ挿ヲ絶ケ更ニ再ヒ之ヲ養子トスルカ如

キ行為ヲ為シタルコト作<sup>ア</sup>リシ徒<sup>モ</sup>ラニ虚式

ニ過キスレテ却テ他ニ種種ノ困難ヲ惹起スル

ノ虞アルヲ以テ<sup>寧</sup>此煩雜ナル無用ノ手救ヲ

廢シテ容易ニ同一ノ<sup>目好ラシキ</sup>源スルヲ得セシム

法典調査會

ナリ養子縁組ハ人爲ナリ婚姻ニ関シテハ之

ヲ實子ト區別シ養家ノ兄弟姉妹ト婚姻セシム

ルモ決シテ亂倫ノ行為ニ非スレテ且現在我國

ニ於テ至ル所ニ至ラ見ルノ事實タリ

直系ノ血族間ニハ婚姻ヲ禁シ傍系タリトモニ

親等内ハ之ヲ禁スルハ既成法典ト異ナル所ナ

明子

ノ其理由ノ如キハ殆ト説明スルヲ要セサル  
シ三親等内ノ親族中叔姪ノ間ニアリテハ獨逸  
及ヒ紐育ノ民法草案ハセテ許シ伊蘭西伊太利  
等ハ特別ノ事情アル場合ニ限りテ特許セルモ  
三親等内ノ婚姻ハ禁スルヲ救國情ニ  
適スルモノトス

第七百七十條 直系ノ姻族間ニ婚姻

法典調査會

得テ第七百十九條ノ規定ニ依

姻族間係ニテハ後亦同シ

其理由 理由本條ハ既成法典人事編第三十六條ト其意

ヲ同シウシ唯其文ヲ異ニシタルノミ諸國ノ立

法例ヲ見ルニ或ハ傍系ノ姻族間ニ於テモ婚姻

ヲ禁スルコトアレハ或ハ特別ノ事情アル場合

九ノ



22 婚

〇ハ入

申セヨクセキ

後亦同

參照人三六雜律姦父祖妻條新律綱領犯姦律親族相姦條改

第七百七十六條 直系ノ姻族間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコト  
得ル第七百三十九條ノ規定ニ依リ姻族關係カ止ミタ

十三日司法省指同五月二十九日山梨縣ニ對スル司法省指  
同日千葉縣ニ對スル司法省指同六月十九日司法省指同月  
二十五日司法省指同九月十九日司法省指同十一月五日司  
法省指同月二十四日司法省指同十二月二十三日司法省指  
同月二十五日司法省指二十六年二月二十一日司法省指二  
十四年三月三日司法省指同十一月司法省指同十二月司法  
省指二十五年九月司法省指二十六年六月司法省指二十七  
年三月司法省指同十月司法省指二十八年二月司法省指佛  
一六一乃至一六四三四八澳六五二二五〇八七八八伊五八  
乃至六〇六八一項第一〇七三一項一號乃至三號二項瑞千  
八百七十四年十二月二十四日法二八一項二號西八四一號  
二號四號乃至六號八五白草五四八乃至一五〇第一草一二  
三六同二草一二一六一一一七如五九紐草三八

海子

定律例二六一年三月三日太政官指七年四月二十日太政官指同七月七日司法省指八年三月八日內務省指同五月十五日內務省指同八月二十二日內務省指同十二月八日太政官指同月二十七日內務省指同九年三月三十日太政官指同四月五日內務省指同月七日內務省指同六月二十四日內務省指同七月二十五日內務省指同九月四日太政官指同月十四日太政官指同月二十二日內務省指同月二十五日內務省指同十年二月七日內務省指同六月十三日內務省指同八月二十七日內務省指同月二十九日內務省指同十二月十二日內務省指同月十四日內務省指同十一月二十九日內務省指同七月五日內務省指同八月二十六日內務省指同十二月十四日內務省指同十二月二十九日內務省指同四月二十二日內務省指同五月十四日內務省指同九月十五日內務省指同十二月二十五日內務省指同十三年五月十五日太政官指同五月二十四日內務省指同十四年六月十八日內務省指同九月十六日內務省指同十五年四月十八日內務省指同六月十七日太政官指同十六年五月二十三日太政官指同十二月二十日內務省指同十七年一月二十九日太政官指同日內務省指同

鳥田

二月十三日內務省指同月二十九日內務省指同六月十六日戶籍局照會十八年三月二日內務省指同月十二日內務省指同月十九日內務省指同四月四日內務省指同十二月十一日內務省指同十九年四月二十日司法省指同月二十七日兵庫縣對スル司法省指同日長野縣對スル司法省指同日岐阜縣對スル司法省指同日新潟縣對スル司法省指同五月四日司法省指同月七日司法省指同月八日司法省指同月十日大分縣對スル司法省指同日神奈川縣對スル司法省指同月十三日山口縣對スル司法省指同日山形縣對スル司法省指同月十七日司法省指同月二十日司法省指同月二十九日司法省指同六月八日司法省指同月十五日司法省指同月二十三日司法省指同月二十八日司法省指同八月二日司法省指同月九日司法省指同月二十日司法省指同月二十八日司法省指同九月十一日司法省指同十月十八日司法省指同十二月十四日司法省指同二十年一月七日司法省指同月十四日司法省指同三月十一日司法省指同五月三日司法省指同月十二日司法省指同六月十日司法省指同九月二十四日司法省指同十月七日司法省指同月二十七日司法省指



同十一月十七日司法省指同月三十日汝城縣=對スル司法省指同日長野縣=對スル司法省指同十二月五日埼玉縣=對スル司法省指同日長野縣=對スル司法省指同月八日司法省指同月二十一日司法省指同月二十八日司法省指二十一年一月十八日司法省指同月二十日司法省指同月二十四日伺=對スル司法省指同月二十七日司法省指二月十八日司法省指四月二日司法省指同月九日司法省指同月十日司法省指同月二十四日司法省指同月五日司法省指同月九日司法省指同月十二日司法省指同月二十五日司法省指同月二十九日司法省指同六月五日司法省指同月七日司法省指同月十二日司法省指同七月九日司法省指同九月八日司法省指同十一月六日司法省指同月十九日司法省指同十二月二十五日司法省指二月二年三月二十九日司法省指同四月一日司法省指同月二十三日司法省指同五月二十九日山梨縣=對スル司法省指同日千葉縣=對スル司法省指六月十日司法省指同月十九日司法省指同月二十五日司法省指同九月十九日大分縣=對スル司法省指同日千葉縣=對スル司法省指同日長野縣=對スル司法省指同月二十一日司

有在

24

婚

法省指同十一月五日司法省指同十二月二十三日司法省指同月二十四日司法省指同月二十八日司法省指同月靜岡=對スル司法省指二十三年一月十五日司法省指同月二十三日司法省指二月六日司法省指同月十三日司法省指同月二十一日司法省指同月二十三日司法省指同月三月十九日司法省指同四月二十八日司法省指同五月七日司法省指同六月十三日司法省指同月二十四日司法省指同七月十七日司法省指同十二月三日司法省指同年內務司法兩省指二十四年四月司法省指同八月司法省指同九月司法省指同十一月司法省指二十六年五月司法省指同六月長崎縣=對スル司法省指同月福島縣=對スル司法省指同十月司法省指二十七年一月司法省指同八月司法省指同十月司法省指佛一六一一六二一六四澳六六一二五關八七八八伊五九六八一項葡一〇七三一項一號瑞千八百七十四年十二月二十四日法二八一項二號西八四一號三號四號八五白草一四八乃至一五〇獨一號一二三六同二章一一二一六

第七百七十七條 養子其配偶者其直系血親及七其直系血

屬ノ配偶者ト養親及ヒ其直系尊屬トノ間ニ於テハ第七  
百四十條ノ規定ニ依リ親族關係力止ミタル後ト雖モ婚  
姻力爲スコトヲ得ス

(參照) 人三七六年八月十二日太政官指回月二十七日太政官  
指七年五月八日太政官指回九月十二日太政官指八年二月  
十二日太政官指回三月八日內務省指回十二月四日內務省  
指回月二十五日長崎縣ヲ對スル內務省指九年二月二日太  
政官指回九月四日太政官指回月十一日太政官指回月二十  
二日內務省指回六月二十七日內務省指十年二月七日內務  
省指回六月二十日內務省指回九月二十四日內務省指回十  
二月二十四日法制局回答十一年一月十九日內務省回答同  
六月五日內務省指回七月五日內務省指回十一月八日內務  
省指回月三十日內務省指回十二月二日內務省指回月二十  
七日內務省指回三年十月六日內務省指回月十五日內務省  
指十四年五月六日內務省指回六月十八日內務省指十五年  
四月十八日內務省指回七月二十二日內務省指回九月二十  
八日內務省指十六年六月九日內務省指回月七五日愛知縣



ニ限リテラテ許セルモノモ又本案ノ

如ク在クテテ許スモノアリ我國ノ慣習亦盡一

ナラスレテ時トシテ姻族ノ兄弟姉妹等ノ婚姻

ヲ禁スル令ヲ下シタルコトアルモ多クハテラ

許ス方針ニシテ殊ニモ妻ノ姉妹ト婚姻スル例

ハ頻々之ヲ見ル所ニシテ之見ノ遺事ト婚姻ノ

如キモ當事者ノ請願ヲ待ケテ概ス之ヲ許可シ

法典調査會

オルヲ以テ卒口總テノ場合ニテテ許スノ優レ

ルニ之カサルヲ信ヒテ婚姻ノ禁止ヲ獨リ直系

ノ姻族間ニ限リタルノニ本條ノ末文ヲ設ケテ

ルハ假令姻族ノ關係止ムモ曾テ父ト呼ヒ子ト

呼ヒタル者ノ間ニ婚姻ヲ許スヲ不審ト認メテ

レハナリ

たし

26  
婚

第七百七十七條 養子其配偶者其直系卑屬及七其直系卑

法省指同十一月五日司法省指同十二月二十三日司法省指  
同月二十四日司法省指同月二十八日司法省指同月靜國  
對~~九~~司法省指二十三年五月十五日司法省指同月二十三  
日司法省指二月六日司法省指同月十三日司法省指同月二  
十一日司法省指同月二十三日司法省指同三月十九日司法  
省指同月二十八日司法省指同五月七日司法省指同六月  
十三日司法省指同月二十四日司法省指同七月十七日司法  
省指同十二月三日司法省指同年內~~敘~~兩省指二十四年  
四月司法省指同八月司法省指同九月司法省指同十一月司  
法省指二十六年五月司法省指同六月長崎縣~~對~~司法  
省指同月~~福~~島縣~~對~~司法省指同十月司法省指二十七  
年一月司法省指同八月司法省指同十月司法省指同~~一六~~  
一六二一六四澳六六~~三~~五關八七八伊五八五九六八一  
項葡一〇七三二項 號瑞千八百七十四年十二月二十四日  
法二八二項二號~~七~~西八四一號三號四號八五白章一四八乃  
至一五〇獨章一二三六同二章二一六

恒年



七〇七年  
今入

關配偶者ト養親及モ其直系尊屬トノ間ニ於テハ第七  
百四十條ノ規定ニ依リ親族關係ヲ止ミタル後ト雖モ婚  
姻ヲ爲スコトヲ得ス

(參照)八三七年八月十二日太政官指回月二十七日太政官  
指七年五月八日太政官指回九月十二日太政官指八年二月  
十二日太政官指回三月八日內務省指回十二月四日內務省  
指回月二十五日長崎縣ニ對スル內務省指九年二月二日太  
政官指回九月四日太政官指回月十一日太政官指回月二十  
二日內務省指回六月二十七日內務省指十年二月七日內務  
省指回六月二十日內務省指回九月二十四日內務省指回十  
二月二十四日法制局回簽十一年一月十九日內務省指回  
六月五日內務省指回七月五日內務省指回十一月八日內務  
省指回月三十日內務省指回十二月二日內務省指回月二十  
七日內務省指十三年十月六日內務省指回月十五日內務省  
指十四年五月六日內務省指回六月十八日內務省指十五年  
四月十八日內務省指回七月二十二日內務省指回九月二十  
八日內務省指十六年六月九日內務省指回月十五日愛知縣

法律

ニ對スル內務省指回日新瀨縣ニ對スル內務省指回九月二  
十二日內務省指十七年三月二十九日內務省指回三月八日  
太政官指回月二十二日內務省指回六月十六日戶籍局照會  
十八年四月二十四日內務省指十九年四月二十七日司法省  
指二十年一月十四日司法省指回二月二十二日司法省指回  
四月二日司法省指回九月十日司法省指回月十六日司法省  
指二十一年十月十二日司法省指二十二年六月十五日司法  
省回簽二十四年三月三日司法省指二十七年五月司法省指  
回十月司法省指二十八年二月司法省指佛三四八伊六〇瑞  
千八百七十四年十二月二十四日法二八一項二號ハ西八四  
五號八五白草一五一獨二章一一七

第七百七十八條 未成年者カ婚姻ヲ爲スニハ其父母ノ承  
諾ヲ得ルコトヲ要ス但養子ハ其養父母ノ承諾ノミヲ以

テ足ル

父母ノ一方カ知ラサルトキ死亡シタルトキ又ハ其意思

ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ承諾ノミヲ

以テ足ル

27  
婚

父母共ニ知レサルトキ死亡シタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ後見人ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

(參照) 八三八乃至四二戸令嫁女條七年一月二十九日太政官  
損八年八月七日内務省損同十一月二十九日師範條ニ對スル  
ル内務省損同官城縣ニ對スル内務省損九年三月内務省  
損佛一四八乃至五五一五八乃至一六〇誤四九乃至五三  
九二乃至一〇四四六三乃至六七七一〇五八一號一〇六  
一一〇六二瑞千八百七十四年十二月二十四日法二二三項  
西四五一號四六乃至四九百章一四二一四三獨一章一三三  
八一三三九回二章二一〇乃至一二一四紐章五四三號

第七百七十九條 前條ノ規定ハ繼父母ニハ之ヲ適用セス

(參照) 八三八三項

第七百八十條 婚姻ハ夫ノ住所ノ戶籍吏ニ之ヲ届出ツルニ因テ其效力ヲ生ス但増養子縁組及ヒ入夫婚姻ノ場合ニ於テハ妻ノ住所ノ戶籍吏ニ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

朽木

75始

75婚

意ノ者ニ人唯現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ返

還ヲ為セリ足<sup>ハ</sup>リトシ惡意ノ者ニハ婚姻ニ因

リテ得タル利益ノ全部ヲ返還セシメ尚<sup>ホ</sup>意ノ

相手方ニ對シテ損害ヲ賠償スル責ヲ負ハシメ

タリ

第二節 婚姻ノ效力

理由 既成法典人事編ニハ婚姻ノ效力ト題スル



下ニ婚姻ノ效力ヲ生スル時期乃ヒ妻ノ能力ニ  
関シテモ規定スル所ナレトモ本案ニ於テハ既  
ニ婚姻ノ成立ト駈スル下ニ婚姻ノ效力ヲ生ス  
ル時期ヲ規定シ妻ノ能力ニ関シテハ既ニ民法  
ノ總則編ニ十分ノ規定アルヲ以テ何レモ本案  
ニミテ置クヲ要セザルニ至リ本案ニ規定ス

七七一

本  
本

ルモノハ妻ノ夫家ニ入ルコト夫婦ノ権義及ヒ  
 夫婦間ノ契約ニ関スル原則等ノ数項ニ過キス  
 而シテ夫婦ノ権義ニ至リテモ尤モ必要ニシテ  
 且強行シ得ヘキ性質ノモノニテ掲タルニ止  
 メ彼ノ相互ニ敬愛スル義務丈ノ妻ヲ保護スル  
 義務妻ノ丈ニ貞操ナル義務等ノ如ク甚多シハ  
 道徳ノ範圍ニ涉<sup>ル</sup>ル<sup>ル</sup>モノハ全然  
 法典調査會

之ヲ掲ケサルコトトシタリ夫婦財産契約ハ  
 姻ヨリ生スル重大ノ效力ニシテ宜シク民法中  
 ニ規定ス<sup>キ</sup>モノナルモ排置便宜上特ニ  
 節ヲ置キテ之ニ関スル條項ヲ纏括スルユトト  
 シタルヲ以テ本節ハ極メテ簡潔ナルモノト為  
 レリ



第七百八十九條 妻、婚姻に因りて夫の家

ナ

参照七三五七四一人二四三十二年二月二十五日内務省損  
澳九一九二附一六〇伊一三一瑞千八百七十四年十二月二  
十四日法二五四項第二章一二五五加一五六紐章七六

理由 妻ハ夫ノ家ニ入り夫及ヒ婿養子ハ妻ノ

家ニ入ル(キハ家族制度ヲ維持スルニ必要ナ

ル事項ニシテ本條ノ主意ハ既ニ第二章戸主及

ヒ家族ノ規定ニ於テ充マリシモノトス夫カ戸

法典調査會

主ナルトキハ其妻ハ夫ノ家ニ入り妻ハ戸主ナ

ルトキハ其夫及ヒ婿養子ハ妻ノ家ニ入ルハ勿

論家族ノ夫若クハ妻モ本條ノ規定ニ依リテ妻

ト其家ニ入ル(キモノトナリシナリ既ニ其家

ニ入ルトキハ其家ノ氏ヲ稱シ其家ニ属スル身

分~~ハ~~退等ヲ受メ(キモノトス此等ノ事タル從

海の

海の

第七百八十九條 妻ノ婚姻ニ因リ夫ノ家ニ入ル

本

一 夫乃ヒ婚養子ハ妻ノ家ニ入ル

凡 條 夫 婦 之 姻 戚 總 目 第 一 款 第 二 條

理由(參照) 妻ハ夫ノ家ニ入り夫乃ヒ婚養子ハ妻ノ

家ニ入ル(キハ家族制度ヲ維持スルニ必要ナ

ル事項ニシテ本條ノ主意ハ既ニ第二章(主及

ヒ家族ノ規定ニ於テ充コリシモノトス夫カ戸

法 典 調 査 會

主ナルトキハ其妻ハ夫ノ家ニ入り妻ハ戸主ナ

ルトキハ其夫乃ヒ婚養子ハ妻ノ家ニ入ルハ勿

論家族ノ夫若クハ妻モ本條ノ規定ニ依リテ妻

ク其家ニ入ル(キモノトナリシナリ既ニ其家

ニ入ルトキハ其家ノ氏ヲ稱シ其家ニ属スル身

分~~特~~過等ヲ受メ(キモノトス此等ノ事タル從

婚





来ノ慣習ヲシテ

明文化ノ後ニ至リテ其ノ疑義ヲ

示シテ之ヲ以テ特ニ明文化ヲ

本條規定ノ家族制度ノ本質ニ

ノ效力中尤モ重要視スヘキモノナルヲ以テ之

ヲ本節ノ首條ニ置キレナリ

第七百九條 妻本國ノ法律ニ依リテ

法典調査會

(参照八六五八四八五條二一三二一四漢九二蘭一六一伊一三〇乃至一三三編一章一二七二二七三同二章一二五三一二二五四加一五六一五七一八二紐章七六七七八五)

理由何レノ國法モ夫婦ノ同居スヘキモノトシ

既成法典ノ事編モ亦同ノ主義ヨリ唯之ヲ表

面ニ示ササルモ規條ノ實質ヨリ我民法モ此原

則ヲ採レルコトヲ知ルヲ得ルナリ(六五、八四、八五)

参考(一)然ルニ本案ニ於テハ之ヲ明言スルヲ可ナ

42



来ノ慣習ニシテ

不明文ニシテ

ルニテ計ニシタルコト

ノ本條規定ニ依テ

ノ效力中尤モ重要視ス

ヲ本節ノ首條ニ置キシナリ

第七百九條 妻未同姓ニテ

法典調査會

78 婚

五二四六五一條三〇五一附  
六三三項二九〇一六三五三

不申ニテ同姓ヲ為シ

理由何レノ國法モ夫婦ノ同居ス

既成法典ノ事編モ亦同

固ニ示ササルモ規定ノ実質ヨリ

則テ採レルコトヲ知ルヲ得ルナリ

参照然ルヲ本案ニ於テハ

テ明言スルヲ可ナ





リト認メテ本條ヲ設クナリ

白鷺

本條ノ義務ハ之ヲ強行スルコトヲ得ルモノナ

リヤ外國ノ立法例ハ二種ニ分ルレトモ本案

ハ之ヲ強行シ得ルモノトシタルナリ故ニ妻ニ

シテ同居ヲ肯セサルトキハ強カラ用ヒテ之ヲ

同居セシメ隠匿以テスル等ノ場合ニハ搜索ヲ

致シテ夫ノ居所ニ至ラシムルコトヲ得ヘシ

法典調査會

第二項ハ夫ニモ同居ノ義務ヲ為サシムル義

妻ラシテ

務ヲ負ハシメタルモノナリ既ニ妻ニハ夫同居

居スル義務ヲ負ハシメタリ而シテ夫ハ妻ヲシ

テ同居セシムルモノナリトスルトキハ二者ノ

間ニ撞衝ヲ得サルヲ以テ必ラス夫ニモ同居ノ

義務ヲ負ハシメサレハカラス唯本案

80 婚

日野

婦人同居スル義務ヲ負フト云フトキハ本案ハ  
 恰モ男女同等ノ主義ヲ採リシカノ嫌ラ生ズル  
 シテ殊更ニ分ケテ第一項及ヒ第二項トシテ  
 ルノニ本案ハ既ニ夫ノ義務リ規定セラ妻ハ夫  
 ノ家ニ入ルヲ得見トシタリ夫ノ家ニ入ラザル  
 トキハ夫ト同居スルキハ當然ナリ故ニ妻ハ夫  
 ト同居スル義務ヲ負フト言ヘリ夫ニ問シラハ

法典調査會

妻同居スル義務ニ非ズルニ難キ所ナリ

(参照) 八四條 二二二二 一四 四九 一五八一 六二二  
 項 伊一三〇 一三二二 三三三 獨一章 一七八〇 一七八一 一四六  
 〇 同二章 一二六〇 一二六一 加一五五 一八一 一八二 紐章七

ウエハツシ

理由) 本條ニハ夫婦ノ扶養ヲ為ス義務ヲ負フ  
 コトヲ示スニ止メ扶養ノ順序程度方法等ハ第  
 八章ニ定ムル所ニ依ル



日曜

80 婚

第百八十七條  
夫婦  
五八四

~~婦同居スル義務ヲ負フト言フトキハ本案ハ  
 恰モ男女同等ノ主義ヲ採リシカノ嫌ヲ生  
 ヲシテ殊更ニ分々ヲ第一項及七條ニ項トシテ  
 ルノニ本案ハ既ニ夫ノ存リ規定セラ妻ハ夫  
 ノ家ニ入ルヲ解則トシテ又家ニ入ルヤ  
 トキハ夫ト同居スルハ當然ナリ故ニ是ハ夫  
 ト同居スル義務ヲ負フト言ヘリ夫ニ関シラハ  
 同居スル義務ヲ負フト言ヘリ夫ニ関シラハ  
 同居スル義務ヲ負フト言ヘリ夫ニ関シラハ  
 同居スル義務ヲ負フト言ヘリ夫ニ関シラハ~~

法典調査會

第七百九十一條 夫婦ノ互ニ扶養ヲ爲ス義務

参照

(理由) 本條ニハ夫婦ノ互ニ扶養ヲ爲ス義務ヲ負フ  
 コトヲ示スニ止メ扶養ノ順序程度方法等ハ第  
 八章ニ定ムル所ニ依ル





第七百九十九條 ~~專ら未成年者~~

~~未成年者~~ 成年ノ人

百七一九〇

理由 未成年者ノ後見人トナルヘキ者ハ親權ヲ

行フ者ガ 便宜ヲ以テ 擬定シタル者 后主若クハ

親族層ノ 選定 シタル者 トモ 未成年者ニシ

テ人ノ 妻タル 場合ニ於テハ他人ヲ以テ 後見

人ト為スヨリモ 寧ロ 成年ノ 夫ヲ 後見人ノ

法典調査會

職務ヲ行ハシムルヲ可トシテ 本條ヲ 設ケタル

ナリ 後見人ノ 職務 後見人ノ 職務

第七百九十九條 未成年者ノ 後見人

(參照 取三五三六一〇 九二項 三六七佛一〇 九六一 五九五

一七〇 七 蘭一五〇 三 葡一五六四 一五六七 ヲラ一 一二五 西

一四五八 印千八百六十五年 和續法 四三三一 加一五八 紐草

七九

未成年者ノ 後見人 職務

未成年者ノ 後見人 職務







八〇八(多)

直打

理由夫婦間ニ於テハ他人間ニ於ケルト異ナル  
 關係アリテ契約ヲ為スニ當リテモ或ハ妻ハ夫  
 ニ威壓セラレテ十分ノ意思ヲ求フルヲ得ヤル  
 コトアリ或ハ夫ハ妻ノ愛ニ溺レテ不知ノ間ニ  
 意思ノ自由ヲ奪ハルル等ノアルヲ以テ夫婦間  
 ニ為シタル契約ハ婚姻中何時ニテモ之ヲ取消  
 スヲ得(キモトシタリ他國ノ法律ニハ夫婦  
 間ノ膏質存セテ贈與ヲ禁スルモノアリ膏質ハ許  
 シテ贈與ノミヲ禁スルモノアリ或ハ何レヲモ許  
 スモ後ニ取消スコトヲ得セシムルモノモアリ  
 既成法典財産得編モ之ニ類スル規定ヲ為シ  
 膏質ハ之ヲ禁シ贈與ハ之ヲ許シ二者共ニ後ニ  
 之ヲ取消スコトヲ得ヘキモノトシ而シテ之

法典調査會



佐々木

換ハ完全ニ成テ 一〇元シ決シテ後ニ至リテ取消スコ

トヲ得サルモノトセリ賣買ト贈與トニ依リテ

其規定ヲ異ニシタル理由 ハ金也 ~~後方ハ~~モ未

タ十分ノ理由ト為スニ足ラズ殊ニ賣買ト交換

トニ依リテ著シク之ヲ異ニシ明文ヲ特ニ之ヲ 以テ

指示シタルニ至リテハ殆ト其手意ヲ解スルヲ

得サルナリ本案ハ契約ノ有償タルト無償タル

法典調査會

ト存ヒ契約ノ目的物ノ金錢タルト金錢以外ノ

物タルトニ依リテ其規定ヲ異ニセス總テノ契

約ハ之ヲ取消スコトヲ得ルモノトシタリ然レ

トモ之カ為メニ第三者ノ権利ヲ害スルコトナ

カラレメント款シテ本條ニ但書ヲ設ケタリ尚

取消ノ場合ヲサカラシメンカ為メニ契約ヲ取

第六卷 後見

理由(本章)八改(法典)人律編第十卷(昔)其(不)  
是(實)法(規定)之(事)其(不)  
法典(修正)ノ

伏々々

消スコトヲ得ん時期ヲ限リテ婚姻中トシ取消ニ本ハ  
推ヲ行フコトヲ得ル者ヲ限リテ夫婦ノ一方ト  
レタリ

法典調査會

ト禁治産者ノ後見トニ因リテ章ヲ分チ不統一  
之ヲ本章ニ規定シタリ既成法典ノ主意モ亦決  
シテ二者ニ大差アリト認めテ之ヲ分ケタルニ非  
ス後見ノ章ノ外ニ禁治産者ノ章ヲ設ケタルヲ  
以テ禁治産者ノ後見ヲ第十卷ニ編入スルヲ  
得サリシヲナラシメ編第ニ百二十六條ヲ見ル  
トキハ其主旨明カナリ

第六



第二章 後見

理由(本章ハ既成法典人筆編第十章三番リ其規  
 定ノ實質ト規定シタル事項ノ範圍トニ修正ヲ  
 加ヘタルモノトス即チ左編第十章八章ニ未成年  
 年者ノ後見ノミヲ規定シ禁治産者ノ関シテハ  
 別ニ一章ヲ設ケタルモ本章ハ未成年者ノ後見  
 ト禁治産者ノ後見トニ因リテ章ヲ分タス終ラ  
 之ヲ本章ニ規定シタリ既成法典ノ主意モ亦決  
 シラニ者ニ大差アリト認めテ之ヲ分ケタルニ非  
 ス後見ノ章ノ外ニ禁治産者ノ章ヲ設ケタルヲ  
 以テ旁林示治産者ノ後見ヲ第十章ニ編入スルヲ  
 得サリシモノナラシ編第ニ百二十六條ヲ見ル  
 トキハ其主意明カナリ

法典調査會

第4

84 始

第六卷 後見

第五卷 第六卷 第八卷 第九卷 第十卷 第十一卷 第十二卷 第十三卷 第十四卷 第十五卷 第十六卷 第十七卷 第十八卷 第十九卷 第二十卷 第二十一卷 第二十二卷 第二十三卷 第二十四卷 第二十五卷 第二十六卷 第二十七卷 第二十八卷 第二十九卷 第三十卷 第三十一卷 第三十二卷 第三十三卷 第三十四卷 第三十五卷 第三十六卷 第三十七卷 第三十八卷 第三十九卷 第四十卷 第四十一卷 第四十二卷 第四十三卷 第四十四卷 第四十五卷 第四十六卷 第四十七卷 第四十八卷 第四十九卷 第五十卷 第五十一卷 第五十二卷 第五十三卷 第五十四卷 第五十五卷 第五十六卷 第五十七卷 第五十八卷 第五十九卷 第六十卷 第六十一卷 第六十二卷 第六十三卷 第六十四卷 第六十五卷 第六十六卷 第六十七卷 第六十八卷 第六十九卷 第七十卷 第七十一卷 第七十二卷 第七十三卷 第七十四卷 第七十五卷 第七十六卷 第七十七卷 第七十八卷 第七十九卷 第八十卷 第八十一卷 第八十二卷 第八十三卷 第八十四卷 第八十五卷 第八十六卷 第八十七卷 第八十八卷 第八十九卷 第九十卷 第九十一卷 第九十二卷 第九十三卷 第九十四卷 第九十五卷 第九十六卷 第九十七卷 第九十八卷 第九十九卷 第一百卷

伏見

消スコトヲ得ん時期ヲ限リテ婚姻中トシ取消  
推テ行フコトヲ得ル者ヲ限リテ夫婦ノ一ヲト  
シタリ

法典調査會

ト禁治産者ノ後見トニ因リテ章ヲ分チテ終ラ  
之ヲ本章ニ規定シタリ既成法典ノ主意モ亦決  
シラニ者ニ大差アリト認メテ之ヲ分ケタルニ非  
ス後見ノ章ノ外ニ禁治産者ノ章ヲ設ケタルヲ  
以テ旁林亦治産者ノ後見ヲ第十卷ニ編入スルヲ  
得サリシヲナラシメ編第百二十六條ヲ見ル  
トキハ其主意明カナリ



人事編第十卷ノ中ニハ親族會ノ規定ヲ為シ  
既成法典ハ

レヲミテ未成年者ノ親族會ノ外親族會ヲ組織

スル必要アル場合ニ適用スルコトトスレトモ  
十七七

親族會ノ必要アルハ後見ノ場合ニ限ニアラズ

ルハ既成法典ノ認めルト同シテ殊ニ本案ニ於

テハ其必要アル場合ヲ既成法典ヨリモ多ク

設ケタルヲ以テ親族會ニ関スル規定ヲ後見ノ

法典調査會

章中ニ置キララセテ他ノ場合ニ適用若クハ準用

スルハ法律ノ体ヲ得タルモノニ非ストシテ後  
サレテ以テ

是ノ章ヨリ辭キテ独立ノ章トセタリ  
尚  
以上亦一々各点ハ

ヲ参照スレシテ之ヲ規定ノ範圍ニ定ムルニテ  
任本案ト既成法典ト向ニ存

果トスレバ此針既成法典ニハ第十卷ヲ十個ニ分ケ  
新

先ツ總則ヲ置キ次ニ第一節後見人トシ以下第

二節後見監督人第三節親族會ト順次ニ規定シ

タルヲ本案ニ於テ之ヲ改メ第一節後見ノ開始

第二節後見ノ核對第三節後見ノ事務第四節後

見ノ終了トシタリ

第一節 後見ノ開始

理由本節ニハ如何ナル場合ニ後見ハ開始スル

方ヲ規定ス

法典編纂會

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

政官指同年六月一日内務省指同月六日同省指同年十二月  
 十四日同省指十五年三月三日同省指同年四月十日同省指  
 同年五月二十五日同省指同年八月十六日同省指同年十  
 一月十一日同省指同月二十二日同省指二十六年一月二十  
 六日同省指同年五月十四日同省指同年六月十四日同省指  
 同年十月十二日同省指十七年五月二十一日同省指同年十  
 一月十三日同省指十八年二月十三日同省指同月二十五日  
 同省指同年七月二十二日同省指二十二年五月十二日司  
 法省指二十一年一月十二日同省指二十二年六月六日民事  
 局長回答二十三年四月十七日司法省指同年九月十八日同  
 省指同年十月二十日大審院判決二十四年十月司法省指同

於テ開始ス禁治産者ハ之ヲ後見ニ付スルコト



二節後見監督人第三節親族會ト具次ニ規定シ

タルヲ本案ニ於テ之ヲ改メ第一節後見ノ開始

第二節後見ノ概闕第三節後見ノ事務第四節後

見ノ終了トシタリ

第一節 後見ノ開始

(理由)本節ニハ如何ナル場合ニ後見ハ開始スル

カラ規定ス

法典調査會

第九百五條 後見ノ開始ノ場合ニ於テ開始ス



甲第五十八號

明治二十九年四月二十日配付

第六章 後見

第一節 後見ノ開始

第九百五條 後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス

一 未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ母カ財產ノ管理ヲ辭シタルトキ

成年者カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

(參照)八人一六一二二四一項六年一月二十二日告二八號華士族組續法二章九年二月二十四日內務省指同年三月十四日同省指十年一月二十九日太政官指同年二月二十一日島根縣ニ對スル內務省指同日兵庫縣ニ對スル同省指同月二十二日同省指同年七月九日同省指同年八月七日同省指二同年十二月十二日同省指十一年三月二十日同省指同年九月十三日同省指同年十月十一日同省指同年十二月十四日同省指二同月二十五日同省指十三年十一月十二日內務省指同月十七日太政官指同日內務省指十四年四月十一日太

ウラ一ツリ

改官捐同年六月一日内務省捐同月六日同省捐同年十二月十四日同省捐十五年三月三日同省捐同年四月十日同省捐同年五月二十五日同省捐同年八月十六日同省回答同年十一月十一日同省捐同月二十二日同省捐一十六年一月二十六日同省捐同年五月十四日同省捐同年六月十四日同省捐同年十月十二日同省捐十七年五月二十一日同省捐同年十一月十三日同省捐十八年二月十三日同省捐同月二十五日同省捐同年七月二十二日同省捐一二十年五月二十二日司法省捐二十一年一月十二日同省捐二十二年六月六日民事局長回答二十三年四月十七日司法省捐同年九月十八日同省捐同年十月二十日大審院判決二十四年十月司法省捐同年十二月八日大審院判決二十五年一月總務局長回答同年十二月二十二日大審院判決同年三月總務局長回答二十七年二月十六日司法省捐二十八年六月十五日大審院判決佛三九〇澳一八七附三八五三項五〇三同千八百八十四年四月二十六日法四伊二四一三二九葡一八五三一七一〇項三三七ウエリロ七三〇七三六七三八七四一七四三七四五八一九八二六西一九九二〇〇二一三二一八三二二二八白草三八五四八九一項獨一草一六三三一七二六一七二七同二草一六五五一七七一一七七二普千八百七十五年七月五日後見法一一索一八七五乃至一八八〇一九九〇乃至一九九二一九九五同千八百八十二年二月二十日法二節一四七

才同年六月 勸捐三和 日者九月

才同年六月 勸捐三和 日者九月

才同年六月 勸捐三和 日者九月

理由 後見ハ本條三規定ニシテ二個ノ場合ニ

於テ開始ス禁治産者ハ之ヲ後見ニ付スルコト

九月五

陸



5

第二節後見ノ概略

法典調査會

ハ既ニ終則ノ規定ニテ見ル所ナルモ其如何ナル時ヲ以テ後見ヲ開始スルカハ本條ヲ見テ初メテ明<sup>白</sup>ナリトス未成年者ニ後見ヲ付スルコトハ本條ニ於テテテ明定シ同時ニ其後見ノ開始スル場合ヲ示シタリ實際ニ於テハ既成法典人事務編第六十一條ノ規定ト異ナル所ナシ

理由 本節ハ既成法典民法人事務編第十章第一節第二節及び第四節ニ當リ後見ノ概略ニ付テ規定スルモノナリ後見ノ概略ハ後見人後見監督人乃ヒ親族會ナリトス然レトモ親族會ハ後見ノ事務ニ屬セサル<sup>職</sup>多クノ事務ヲモテ<sup>テ</sup>見ル以テ便宜上特別ノ一章ヲ設ケテ規定スルヲ便<sup>易</sup>

要旨ナシ

トレ本節ニ人單ニ後見人ト後見監督人トニ関  
シテ規定スルニルナリ

既成法典ハ第四節トシテ後見ノ免除ヲ規定シ  
タルモ特ニ一節ヲ設クルノ要ナレト信シテ之

ヲ省キ同節中ニ規定シタル事項ハ之ヲ後見人  
ノ規定中ニ入レ而シテ後見人監督人ノ場合ニ

準用スルコトトシタリ徑テ本章ハ第一款後見  
人<sup>并</sup>

法典調査會

人第二款後見監督人ノニ款トス

第一款 後見人

(理由) 本款ヲ設クル理由ハ前ニ述ヘタル所ニ

依リテ明カナルヘシ先ツ後見人ヲ規定シ次ニ

後見監督人ニ及ブハ是亦至當ノ順序ナリ

第九條 未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ



九〇六

行つ者ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコト  
得但財産ノ管理ヲ辭シタル母ハ此限ニ在

親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ財産ノ管理ヲ辭シタル  
トキハ父ノ前條ノ規定ニ依リ後見人ヲ指定ヲ爲スコト  
得

(參照)八一六四一六五三三年三月八日内務省指一十五年四月十日同省指七十八年八月十四日同省指二十五年二月八日大審院判決二十六年三月七日同院判決二十七年十二月十九日同院判決佛三九二三九七乃至四〇〇。澳一九六附四

裏(フ)

理由 本條ハ既成法典民法人ヲ編第百六十四

法典編查會

條存ヒ第百五十五條ニ當リサレタラニ修正ヲ

加(タルモノトス今左ニ其相異ナル点ヲ示ス)

左セテ本條ノ理由ニ関シテ説明スル所アラハ

一 既成法典第百五十四條ニハ親權ヲ行フ父又

ハ母ハ後見人タル可キ者ヲ指定スル權ヲ有

ストシ父又ハ母ハト言ヘルヲ以テ父母各自

た







ニ後見人ヲ指定スルコトヲ得ルカノ如ク解

シ得ル<sup>ラ</sup>レテ不都合ナルヲ以テ本條ニ於テ改

メテ最後ニ親權ヲ行フ者ハ之ヲ指定スルコト

ヲ得トシタリ 最後ニ親權ヲ行フ者ハ<sup>ハ</sup>父ナル

コトモアレハ母ナルコトモアルヘシ父母共

ニ生存スルトキハ父ハ親權ヲ行ヒ父死テス

ルトキハ母ハ親權ヲ行フヲ以テ後見人ヲ指

法典調査會

定シ得ルモノハ<sup>其ノ</sup>一人<sup>ハ</sup>為ル<sup>ル</sup>ノ理ナリ

諸外國ノ法律ヲ見ル<sup>モ</sup>概ス本條ト同一ノ規

定ヲ為スモノノ如シ既成民法モ亦敢テ父母

兩人共ニ同時ニ後見人ヲ指定スルコトヲ得

トスルノ事<sup>意</sup>ニ非サルヘシト雖モ<sup>其ノ</sup>明文<sup>ハ</sup>記載

ニ<sup>ハ</sup>法ノ宜シキヲ得サルト又他ノ<sup>十</sup>數ノ國ニ

瞭ナラ

法文ハ明



アリテハ父母兩人同時ニ後見人ヲ指定シ裁

判所ヲシテ其一ヲ概ハレムルコトトせんモ

ノアルヲ以テ或ハ世人ノ疑ヲ拒クノ虞アル

ヲ以テ改メテ本條ノ如クシタリ

最後ニ親権ヲ行フ者カ後見人ヲ指定スルコ

トヲ得ルハ後見人ハ畢竟親権ノ延長ニタル

モノナレムナリ父カ死スルモ母ハ親権ヲ行

フトキハ別ニ後見人ヲ指定スルコトヲ父ハ

後見人トナルヘキ者ヲ指定レ置キラ母

ノ死後ニ之ヲ後見人ト為ストスルトキハ二

人ノ親権ヲ行フカ如キ者ヲ生セサルモ何年

ノ後ニ後見人ト為ルヘキカ計ラレズ母ノ生

存スルコト愈長ケレハ其間ニハ父ノ指定シ

存スルコト愈長ケレハ其間ニハ父ノ指定シ

置クノ必要ナシ  
法典調査會

小豫メニテ之ヲ得

置キタル後見人ノ死モスルコトモアレハ或  
 ハ其身上ニ非常ノ變化ヲ来スコトモアルヘ  
 シ此ノ如キ不都合アルヲ以テ最後ニ親権ヲ  
 行フ者ヲシテ後見人ヲ指定セシメ成ヘタ  
 母ニ應レテ適者ノ人ヲ擧クルヲ得セシメタ

法典調査會

二母カ最後ニ親権ヲ行フトキハ後見人ヲ指定  
 スルコトヲ得ルハ前ニ述ヘタル如クナルモ  
 差シ<sup>其</sup>母ニシテ財産ノ管理ヲ行ヒタルトキ  
 ハ後見人ヲ指定スルコトヲ得サルモノトス  
 其理由トスル所ハ第一親権ハ子ノ身体上ノ  
 管理ト其財産上ノ管理ヲニ要素ヨリ成レル  
 ニ母ニシテ財産ノ管理ヲ行フハ是レ財産



法典調査會

管理ノ権ヲ拋棄シテ十分ノ親権ヲ行ハサル  
 者ナリ親権ヲ行ハサル者ハ後見人ヲ指定ス  
 ルコトヲ得サルヲ以テ論理上ノ結果財産ノ  
 管理ヲ辞シタル母ハ後見人ヲ指定ニ得サル  
 コトトナルト第二ニ母ヲ財産ノ管理ヲ辞ス  
 ルハ自ラ之ヲ管理スルヲ得スト信シタルヲ  
 以テナラン自ラ之ヲ管理スルコトヲ得サル  
 ニ之ヲ管理スルニ足ルヘキ適當ノ人ヲ選擇  
 スルハ大ニ難ントスル所ナルヘシト認メタ  
 ルトニ因ルナリ既成法典ニモ亦之ト同ノ手  
 意ナルカ如シ

三本條第二項ヲ設ケタル理由ハ第一項但書  
 ノ説明ヨリレテ明カナルヘシ財産ノ管理ヲ

解シタル母ハ財産管理ノ点ニ関シテハ既ニ

死シタルニ等シク母ニシテ死シタル等シケ

レハ父ハ此点ニ関シテハ最後ニ親権ヲ行フ

者ノ如シ徑テ第一項本文ノ規定ト同一ノ主

意ヨリシテ後見人ヲ指定スルコトヲ得セシ

メタルナリ母ハ生存シテ十分ニ親権ヲ行フ

ニ父ハ後ニ後見人ヲ指定シテ母ノ死後ニ子

法典調査會

トニ親権ニ類スルモノヲ行ハシムルトハ

同一ノ論ニ非ス

四後見人ヲ指定スルハ遺言ヲ以テ之ヲ為ス既

成民法第百六十五條ニハ遺言書若クハ證書

ヲ以テ之ヲ為シ又ハ法院所ニ由テ之

ヲ為スヘシトシタルモ後見人ヲ指定スルカ



如キ大事ヲ普通ノ證書ヲ以テスルコトヲ許

スハ其当ヲ得タルモノニ非サルヘシ既成民

法草案ノ如キハ公正證書ヲ以テララ為スト

言ヘルモ公正證書ニ限ルハ聊カ窮屈ニ失シ

又懐言ニ非サル公正證書ヲ以テララ指定ス

ルトキハ後ニ至リテララ變更廢止スルニ頗

ル困難ヲ感スルヲ以テ宜シク懐言ヲ以テ指

法典調査會

定セレメテ何時ニテモ變更スルコトヲ得セ

シムヘシ而シテ懐言ヲ以テスルトキハ終テ

ノ方式ニ從ヒテララ為スコトヲ得セシメ公

正證書ヲ以テスル外自筆證秘密證書等ヲモ

許スヘキナリ

第九百八條

成年者ノ禁治産ノ宣告ヲ受ケテ







法典調査會

ル所アリ先ツ一般ノ成年者ト妻乃ヒ夫トラニ  
 別シ一般ノ成年者ニアリテハ親權ヲ行フ父又  
 ハ母ヲ後見人トス未成年者ノ場合ニ父又ハ母  
 ヲシテ親權ヲ行ハシムルト同一ノ主意ヨリ出  
 ラタルモノニシテ子ノ身体財産ヲ尤モ能ク管  
 理スル者ハ其親ニ差クハナレトノ理由ニ基ク  
 父母共ニナキカ或ハ生存スルモ後見人ト為ル  
 ヲ得サルトキハ其戸主ヲ以テ後見人トス夫カ稔  
 治産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ亦一般ノ場合ト  
 等レク父又ハ母ハ後見人ト為ルナリ父母共ニ  
 後見人ト為ルヲ得サルトキハ妻ヲ以テ後見人  
 トシ妻ナキトキハ戸主ヲ後見人トス妻ノ順位  
 ラ戸主ニ先タシメタルハ夫婦間ノ關係ヲ酌量

ハ父及ヒ

一親權ヲ行フ者也

母子ノ

年三〇



九〇七  
(参照)

シタル結果ナリ第二項ニ於テ妻カ禁治産ノ宣  
告ヲ受ケタルトキハ其父母ヲ差遣キ夫ヲ以テ  
後見人ト為スコトトシタルモ亦夫婦間ニ特種  
ノ關係アルニ基クモノトス

第九百九條前三條ノ規定ニ依リテ家族後

〔參照〕人 一六六二八年九月三十日大審院判決佛四〇二万  
至四〇四澳一九八伊二四四補一九九乃至二〇一西二〇四  
二號二一 一白草三九二編一章一六三五同二章一六五七案

一八九〇  
差人

法典調査會

理由一未成年者ニ對シテハ遺言ヲ以テ指定セ  
ラレタル後見人ヨリ禁治産者ニ對シテハ其  
禁治産者ノ何人タルカニ因リテ父母夫妻若クハ  
妻ハ後見人タリ然レトモ時トシテハ遺言ヲ以  
テ後見人ヲ指定セズ或ハ父母夫妻ノ何レモナ  
キ場合アルヘキヲ以テは場合ニ於テ後見人ト

未  
成  
年  
者  
に  
對  
し  
て  
遺  
言  
の  
効  
力  
を  
問  
ふ

關  
係  
人  
後  
見  
人  
前  
遺  
言  
の  
効  
力

九〇七  
(未照)

ニタル結果ナリ第二項ニ於テ妻カ禁治産ノ宣  
告ヲ受クタルトキハ其父母ヲ<sup>若</sup>遺言キ夫ヲ以テ  
後見人ト為スコトトシタルモ亦夫婦間ニ特種  
ノ關係アルニ基クモノトス

第九百九條 前三條ノ規定ニ依リテ家族ノ後

見人トナル者アリタルトキハ<sup>三</sup>其後見人ト

理由) 未成年者ニ對シテハ遺言ヲ以テ指定セ

ラレタル後見人ヨリ禁治産者ニ對シテハ其

禁治産者ノ何人タルカニ因<sup>依</sup>リテ父母夫妻若クハ

妻ハ後見人タリ然レトモ時トシテハ遺言ヲ以

テ後見人ヲ指定セス或ハ父母夫妻ノ何レモナ

キ場合アルヘキヲ以テ此場合ニ於テ後見人ト

法典調査會

1000



為ルヘキ者ヲ定メサルヘカラス本條ハ之ヲ定

メタルモノニシテ其家族ノ戸主ヲ以テ後見人

トスルナリ家族制度ノ遺風ヲ存セシ我國ニア

リテハ至當ノ規定<sup>ナリ</sup>ニシテ或ハ父母夫妻<sup>ナリ</sup>ニ先テ

テ戸主<sup>ナリ</sup>ヲ後見人トスヘキコト言フ者アル程ナ

ク戸主ト為ルニハ成年者タルヲ要セス後見人ト

法典調査會

ナルニハ成年者タルヲ要ス從テ既成法典ノ如

キハ未成年者ノ家族ニ付テハ成年ノ戸主<sup>ナリ</sup>後見

人ト為ルト言ヒ而シテ禁治産ノ場合ニモ之ヲ

適用スルコトトシタリ(十六、三十四條三項) <sup>其趣</sup>主意ニ

於テハ本案モ既成法典ト相等シキモ特ニ條文

ニ於テ成年ノ戸主ト言ハサリレハ未成年ノ戸

竹

17

主ハ  
後見人ト為り得サルハ他ノ規定ヨリシ

テ自ラ明カナレハナリテ主自ラ未成年者ナ

ルトキハ必ス之ヲ後見人タル者アルヘシ其

後見人ハ併セテ家族ノ後見人ト為ルカ或ハ

各家族ノ為トニ特別ノ後見人ヲ置クカハ親

族会ノ定ムル所ニ因ル

第九百廿四條 前三條ノ規定ニ依リテ後見人ヲ

法典調査會

族会ヲ撰

ク止ムヲ得

撰定セシム

編第九百六

規定ニタリ

(参照)八一六七二二四四項十年七月十六日内務省指同年九月五日太政官指同年十二月十二日内務省指十一年三月二十九日同省指同年十二月三日同省指十三年三月八日同省指十五年十一月十六日同省指二十八年九月十五日同省指十九年十月八日司法省指同年十一月十九日同省指同年十二月二十二日同省指二十年九月九日同省指二十一年四月二十一日何ニ對スル同省指二十二年四月四日同省指同十月二十三日民事局長回答二十三年二月十七日司法省指二十四年三月十六日民事局長回答二十五年十一月司法省指二十六年十月十六日大審院判決二十七年一月十七日民事局長回答佛四〇五演一九〇一九九關四一三乃至四一四同千八百七十六年十一月十五日法三同千八百八十二年四月二十六日法五伊二四五二四八三三〇三項補二〇二二〇三三二〇一項四號ヲキリテ七三二乃至七三四七四一八二二西二〇四三號二三一白章三九三、四八九五項獨一章一六三四一六三八回二章一六五六一六六〇、普千八百七十五年七月五日後見法一七一九索一八八四一八九〇、一八九三、一八九四、一九九六加二四二乃至二四四、二四六紐章一二三乃至一二五一一七





七條 同日 第二

ル 規定 十 既 成 法 典

ル 規 定 十 既 成 法 典

ル 規 定 十 既 成 法 典

ル 規 定 十 既 成 法 典

ル 規 定 十 既 成 法 典

ル 規 定 十 既 成 法 典

ル 規 定 十 既 成 法 典

ル 規 定 十 既 成 法 典

ル 規 定 十 既 成 法 典

ル 規 定 十 既 成 法 典

ル 規 定 十 既 成 法 典

ル 規 定 十 既 成 法 典

指二十七年同省指佛四一七蘭三八六四一八伊二四六

九四西二〇一二〇八白草三八七獨一章一六三八二項

章一六六〇二項索一八八三一八八四印和續法四七加

八乃至二四〇二五二紐草一九乃至一二二二三

二條 後見人ハ左ノ事由アルニ非サレハ其任務

ルコトヲ得ス

軍人又ハ軍屬トシテ現役ニ服スルコト

被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ公務ニ從

後見人タル  
カルトキハ戸主其後見人ト爲ル

入二二四二項三項九年七月十三日內務省指十年三月

日同省指同年九月五日水政官指同年十二月十日內務

同月十二日同省指同月十四日同省指同月十五日同省

〇一二同月十七日同省指十一年五月六日同省指三同

月十三日同省指五同年十二月三日同省指十三年三月

同省指一十五年四月十日同省指七十六年三月三日大

17



レヲ一條ニ纏括シタルマテニテ其實質ニ於テ  
是モ異ナル所ナシ

第九百十五條 ~~カ~~カ財産ノ管理ヲ辭シ後見人

~~カ其職務ヲ辭シ親權ヲ行ヒタル父若クハ母~~

~~カ他所ニナリ又ハ主カ隠居ヲ為シタルニ~~

~~因リ後見人ヲ選定スル必要ヲ生シタルトキ~~

~~ハ其父母又ハ後見人ハ選定ナク裁判所ニ親~~

法典調査會

(参照一六八二三四四項澳一八九附四一七伊二五〇二項  
葡一八九一九一ツムーリッロ七三五七三八百章三九九)

(理由) 本條ハ既成法典民法人律編第六十八

條第二項同第九十八條及ヒ同第二百二十四

條第四項等ニ當リ而モ大ニ其字彙ヲ変更シテ

ルモノナリ第一後見人ヲ選定スヘキ場合ヲ要

ニシテ第二ニ之ヲ選定スルモノ及ヒ其選定ヲ請

レテ一條ニ纏括シタルマテニテ其實質ニ於テ  
優モ要ナル所ナシ

第九百十五條 ~~母~~カ財産ノ管理ヲ辭シ後見人

~~カ其職務ヲ辭シ親権ヲ行ヒタル父若クハ母~~

~~カ他所ニナリ又ハ主カ隠居ヲ為シタルニ~~

~~因リ後见人ヲ選定スル必要ヲ生シタルトキ~~

~~ハ其父母又ハ後见人ハ違滞ナク裁判所ニ親~~

法典調査會

1 族會ヲ招集ヲ請求スルコトヲ要ス

(理由) 本條ハ既成法典民法人事編第百六十八

條第二項同第百九十八條及ヒ同第二百二十四

條第四項等ニ當リ而モ大ニ其旨變ヲ變更シテ

ルモノナリ第一後见人ヲ選定スヘキ場合ヲ要

ニシ第二ニ之ヲ選定スルモノ及ヒ其選定ヲ請

後見人ノ選定ノ請求ノ要件

18





求スルモノヲ曼ニス既成法典第百六十條ニ於  
 テハ未成年者ヲ有スル人ノ死セラルトキ又  
 ハ未成年者ヲ有スル父若クハ母ノ他家ニ入り  
 タルトキニ後見人ヲ撰定スルモノトシ之力暨  
 定ヲ請求スル者ヲ未成年者ノ親族若クハ利害  
 關係人トシ第百九十八條ハ後見人ノ任ヲカトシ  
 テ後見人ノ缺ケタル場合ニ直ニ後任ノ後見  
 人ヲ定ムル手續ヲ為ス（キニトシ第二百二  
 十四條第四項ハ禁治産者ノ後見人ナク遺言後  
 見人モナク又ハ此等ノ後見人カ免除若クハ罷  
 黜セラレタルトキハ禁治産者ノ親族若クハ利  
 害關係人ノ請求ニ依リテ親族會ニ於テ之ヲ撰  
 定スルコト未成年者ノ後見人ノ缺ケタル場合ノ

法典調査會



如クシタリ本條ニハ、之ヲ一檢シテ後見人ヲ暨

定ス（キ必要ノ生スル場合ヲ列挙シテ後見人

カ其職務ヲ解スル場合存ニヒ親族<sup>權</sup>ヲ行ヒタル

父若クハ母カ他家ニ入ル場合ノ升ニ母カ財産

ノ管理ヲ解スル場合存ニヒ戸主カ隱居ヲ為ス場

合ヲモ明示シ而シテハノ如キ場合ニ於テ後見

人ヲ暨定スルモノヲ總テ親族會トシタルナリ

法典調查會

親族會ノ招集ヲ請求ス（キ者ヲ父母又ハ後見

人トシタルハ自己ノ行為ニ因リラ更ニ後見人

ヲ暨定ス（キ必要ヲ生セシメタル者ヲシテハ

義務ヲ盡サシムル為メナリ既成法典ノ如ク或

ハ葎キ親族ニ是責ヲ負ハシメ或ハ廣ク利害關

係人ニ是權ヲ與フルハ不當ト認メタルニ由リ





三訂  
更改メタルモノトス升國ノ法律ニ於テハ多ク

ノ場合ニ於テ後見監督人ヲシテハ請求ヲ為サ

シムルモノモ<sup>三訂</sup>或ハ戸籍吏ヲシテ之ヲ為

サレムルモア<sup>以叔</sup>或ハ何人ノ請求ヲモ待タス

レテ親族會自ラ後見人ヲ撰定ス(キモノトス

ルモノアレトモ何レモ我國情ニ適ヒスト信スル

ニ依リテ本條ノ如ク規定シタルナリ<sup>本條</sup>

法典調査會

下段ノ規定ハ何レノ國法ニモナシ

第九百<sup>十六</sup>條 後見人ハ一人タルコトヲ要ス

理由) 後見人ハ親權ニ類スル權利ヲ行フモノ

ナリ親權ヲ行フモノヲ一人ナリトスルトキハ

後見人モ亦一人ナリトセサルヘカラス後見人

ノ任務ハ被後見人ノ身財を管理スル切當

後ハ又母又其ハキ  
第百九十九條  
第百九十八條  
第百九十七條  
第百九十六條  
第百九十五條  
第百九十四條  
第百九十三條  
第百九十二條  
第百九十一條  
第百九十條  
第百八十九條  
第百八十八條  
第百八十七條  
第百八十六條  
第百八十五條  
第百八十四條  
第百八十三條  
第百八十二條  
第百八十一條  
第百八十條  
第百七十九條  
第百七十八條  
第百七十七條  
第百七十六條  
第百七十五條  
第百七十四條  
第百七十三條  
第百七十二條  
第百七十一條  
第百七十條  
第百六十九條  
第百六十八條  
第百六十七條  
第百六十六條  
第百六十五條  
第百六十四條  
第百六十三條  
第百六十二條  
第百六十一條  
第百六十條  
第百五十九條  
第百五十八條  
第百五十七條  
第百五十六條  
第百五十五條  
第百五十四條  
第百五十三條  
第百五十二條  
第百五十一條  
第百五十條  
第百四十九條  
第百四十八條  
第百四十七條  
第百四十六條  
第百四十五條  
第百四十四條  
第百四十三條  
第百四十二條  
第百四十一條  
第百四十條  
第百三十九條  
第百三十八條  
第百三十七條  
第百三十六條  
第百三十五條  
第百三十四條  
第百三十三條  
第百三十二條  
第百三十一條  
第百三十條  
第百二十九條  
第百二十八條  
第百二十七條  
第百二十六條  
第百二十五條  
第百二十四條  
第百二十三條  
第百二十二條  
第百二十一條  
第百二十條  
第百一十九條  
第百一十八條  
第百一十七條  
第百一十六條  
第百一十五條  
第百一十四條  
第百一十三條  
第百一十二條  
第百一十一條  
第百一十條  
第九十九條  
第九十八條  
第九十七條  
第九十六條  
第九十五條  
第九十四條  
第九十三條  
第九十二條  
第九十一條  
第九十條  
第八十九條  
第八十八條  
第八十七條  
第八十六條  
第八十五條  
第八十四條  
第八十三條  
第八十二條  
第八十一條  
第八十條  
第七十九條  
第七十八條  
第七十七條  
第七十六條  
第七十五條  
第七十四條  
第七十三條  
第七十二條  
第七十一條  
第七十條  
第六十九條  
第六十八條  
第六十七條  
第六十六條  
第六十五條  
第六十四條  
第六十三條  
第六十二條  
第六十一條  
第六十條  
第五十九條  
第五十八條  
第五十七條  
第五十六條  
第五十五條  
第五十四條  
第五十三條  
第五十二條  
第五十一條  
第五十條  
第四十九條  
第四十八條  
第四十七條  
第四十六條  
第四十五條  
第四十四條  
第四十三條  
第四十二條  
第四十一條  
第四十條  
第三十九條  
第三十八條  
第三十七條  
第三十六條  
第三十五條  
第三十四條  
第三十三條  
第三十二條  
第三十一條  
第三十條  
第二十九條  
第二十八條  
第二十七條  
第二十六條  
第二十五條  
第二十四條  
第二十三條  
第二十二條  
第二十一條  
第二十條  
第十九條  
第十八條  
第十七條  
第十六條  
第十五條  
第十四條  
第十三條  
第十二條  
第十一條  
第十條  
第九條  
第八條  
第七條  
第六條  
第五條  
第四條  
第三條  
第二條  
第一條





租入ルニアリテ其財産ノ大ナルトキハ管限入

任務ハ容易ナラサルヲ以テ二人以上ノ者ヲシ

テ之ヲ分担セシムルニキ必要ナキニ非ス徑テ羅

馬法ニ於テハ二人以上ノ後見人ヲ許シ佛國

民法亦之ヲ許シ印度相續法續白國民法草案等ノ

如キハ數人ノ後見人アルモ可ナリトシ我旧慣

トシテモ二人以上ノ後見人アリテ明治十五年

法典調査會

以前ノ指令ニ於テハ之ヲ明記シタルモノノ如

シト雖モ後見人ニシテ二人以上アルトキハ意

見ノ統一ヲ欲スルニ於テハ終議ヲ求スコトヲ

ナルニキヲ以テ本案ニ於テ之ヲ一人ニ限リ

成ヘテ家族ニ關スル終議ノ生スルヲ豫防シテ

リ旧來ノ慣習トシテ二人以上ノ後見人ヲ設ケ

タルコトナキニ非スト雖モ其多數ハ一人ニ限  
 リ又明治十五年以來ノ指令ニ於テハ常ニ之ヲ  
 一人ニ限レルヲ以テ今本案ニ於テ之ヲ一人ト  
 スルモ決シテ救済條ノ上ニ激変ヲ来スノ虞  
 ナキナリ既成法典ハ總テノ場合ニ關シテ明言  
 スル所ナキモ人事編第百六十二條ニ於テ一家  
 ニ未成年者數人アルモ後見人ハ一人タルヘシ  
 トシタルヨリシテ畏其精神ノアル所ヲ窺ヒ知  
 ルヲ得ヘク即チ本案ト同一ノ主意ナルヘシ未  
 成年者數人アルモ後見人ハ一人タルヘシトス  
 ルニ於テハ一人ノ被後見人ニ數人ノ後見人ヲ  
 附スルハ之ヲ許ササルノ主意ナリト解スルハ  
 決シテ不當ノ解釋ニ非サルヘシ本條モ亦後見

法典調査會



人ハ一人タルコトヲ要ストシタリ被後見人ハ  
一人ナルトキハ分滞一家ノ中ニ数人ノ被後見  
アルモ尚後見人ハ一人ナリトス

第九百十三條 復見人ハ婦女ヲ除ク外左ノ事

由アルニ非サルハ其任務ヲ解スルコトヲ得

又

法 律 調 査 會

一 軍人又ハ軍屬トシテ現役ニ服スルコト

二 被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以升ニ於

テ公務ヲニ従事スルコト

三 自己ヨリ先ニ後見人タルヘキ者ニ付

キ本條又ハ次條ニ掲ケタル事由ノ存セ

ル場合ニ於テ其事由カ消滅セタルコト

四 禁治産者ニ付テハ十年以上復見ヲ為

(参照) 一六三・一七八・一七九・二二五・二二六・二五五年十一月十一日  
 内務省指同月十六日 同省指二十二年四月四日 司法省指佛四〇・一四二七乃至四四一・五〇八・漢一九五乃至二〇三二五七乃至二五九・蘭三八七・四三三乃至四三三五・六三三項  
 五一五伊二七二乃至二七六・三三・衛一八六二〇・一二項  
 二〇四・二二七乃至二三〇・三三三・ツ・七四七・七五二・西二〇・二二四乃至二五一・白章三八九四〇・二四二一乃至四二六四九〇・獨一章一六三九一・六四三・一六四四・一七〇・六  
 同二章一六六乃至一六六九一・七四七・普千八百七十五年

至 正 石 修 民 向 法 決 民 人

ウ ン ツ リ

其

大体ヲ同レウシ 唯其條文ヲ係合シ意味ヲ明確

ニシ一二ノ改正増補ヲ為シタルノミ本條ノ第

一號及ヒ第ニ号ハ人事編ヲ百七十八條ノ規定

法 輿 調 査 會

ト等シク第四号ハ台第ニ百二十四條ヲ書キ改

メタルノミヲ五号ニテアルヘキ條文ハ台第百六

十三條ノ前文及ヒヲ百七十九條ナリトスヲ百

六十三條ニハ 後見人ハ親族會ノ受障ヲ得ザル

限リハ後見ヲ差流ス(レ)云々ト云ヒヲ百七十

九條ハ後見受障ノ求メハ 親族會ニテ決ス後

木 地



見人解世ヲ求メタルモ亦同シト云ヒ稍不明ノ

婦ヒアリモ思フニ親族會ハ後見人ヲ免降若ク

ハ解世スルノ権アルモノトスルノ規定タルニ

過キス而シテ親族會ハ何等ノ事由モナキニ後

見人ヲ免解スルコトナカルヘキヲ以テ實際ノ

適用ニ於テ本條ヲ五号ノ如クナルヘシト云フ

ナリ

法典調査會

本條ニ於テハ親族會其の他ニ於テ正當ト認めタル事

由ト云ヒテ其如何ナル事由タルヲ列記セス

ニ親族會ノ認定ニ係リテ若シ後見人ニシテ

正當ノ事由アリト信スルニ親族會ニ於テ之ヲ

正當ノモノト認めサルトキハ訴訟ノ方法ヲ以

テ其取信ヲ負クノ途アリ外國ニ於テハ其事由

ヲ列記スルモノアリ甚タレキハ官名ヲモ列記

シ國務大臣控訴院長控訴長等トナルトキハ

後見人ノ任務カラ辭スルモノトヲ得トスルモノアリ

ルモノ列挙ハ缺キニ失ヒテ實際ノ不便ヲ希久コ

トアルヲ以テ本案ニ於テハ一切親族會ノ認定

スル所ニ悉シクアリ

オ三ノハ外國ニモ多クノ例アリ人事編草案

法典調査會

ニ於テモ之ヲ入シタルヲ既成法典ノ人事編ニ

於テ削除シタルモノナルモ後見人ノ任務ノ大

ナルヲ知ルニ於テハ此ノ如キ規定ノ必要モ明

カニ之ヲ知ルヲ得ヘシ自己ヨリ先ニ後見人ト

ルヘキ者アリ若シ其者ニシテ後見人ト為ルト

キハ自己ハ後見人ト為ラズレテ止ムヘキニ偶



其者ニ辭任ノ事由生シタルニ依リテ自己ニ其  
 任務ノ轉落シ来ルモノトセハ後ニ至リテ其事  
 由ノ止ミタルトキハ其者ラシテ後見人ノ任務  
 ラ執ラシタルヲ得んハ至カサルニ即チ当然  
 ノ順序ニ復スルモノニシテ或ハ明又ナキモ此  
 解釋ヲ生スヘキ程ノモノナリ外國ニ於テハ尚  
 之ヨリ進ミ自己カ後見人ト為リタル後ニ親族  
 中ニ適任者ヲ生シタルトキハ其者ラシテ自己  
 ニ代<sup>イ</sup>ラシムルコトヲ得ト特示スルモ本宗亦ニ於  
 テハ之ヲ採ラズ才五号ニ於ケル正名ノ事由中  
 ニ包合セシメタルヲ以テ若シ親族中ニ此<sup>イ</sup>テ  
 たり後見人ヨリ適任者アリテ之ヲシテ彼ニ代  
 ハラシムルヲ可ト信スルトキハ現後見人ノ辭

法典調査會

現

28

任ヲ許可シ今ニ及ヒテ交替セシムルハ不可ナ

リト信スレト之ヲ許可セサレナリ此等認ニ不

服アル後是人ハ訴訟ヲ為スコトヲ得ヘシ

婦人何時ニシテモ後見人ノ任ヲカシ得スルコト

ヲ得トシタルハ我感情ニ輝<sup>照</sup>レテ此ノ如ク入

キシテ當ト信シタルニ因<sup>原</sup>ル

第九百十四條 右ニ掲ケタル者ハ後見人タル

法典調査會

(參照) 一八〇乃至一八二二六九九年六月二十九日內務省  
指十年三月三日同省指同年七月九日同省指同年八月七日

同省指二同年十二月十日同省指同月十四日同省指同月十  
七日同省指十一年二月二十六日同省指同年三月二十九日  
同省指同年五月六日同省指二同年九月十三日同省指五同  
年十月五日同省指十二年六月二十三日同省指十三年三月  
十日同省指同月十六日同省指十四年七月四日同省指同  
年八月二十九日同省指同月十一月十三日同省指同月二  
十四日太政官指十六年二月五日內務省指同年五月十五日  
同省指同年十二月三日同省指十七年七月一日同省指十八  
年六月八日同省指十九年四月二十九日司法省指同年六月  
十九日大審院判決同年十二月二十二日司法省指二十年七  
月二十三日同省指同年九月七日同省指同月九日同省指同  
月二十一日民事局次長回答二十一年五月十六日司法省指  
二十三年四月十七日同省指二十四年一月二十七日民事局  
長回答同年十二月十一日大審院判決二十五年一月司法省  
指同年四月總務局長回答同年十月司法省指二十六年五月  
同省指二十七年同省指二十八年一月同省指佛四四二乃至  
四四九澳一九一乃至一九四二五四二五七二六一蘭四三六

ウエーソソ

新



乃至四三八四四〇四四〇補五〇六三項同千八百八十四年  
 四月二十六日法六伊二六八乃至二七一葡二三四乃至二四  
 一三二〇二項クァイヲハ一二西二三七乃至二四三白草  
 四〇二四二七乃至四三二第一草一六三七一六四〇一六四  
 六一七〇四一七〇五一七〇七同二章一六五九一六六一乃  
 至一六六四一七四三乃至一七四五普千八百七十五年七月  
 五日後見法二一六二六三索一八八五一八八七一八八八  
 八九一八八九二一八九五一九七四一九七七一九七八加二  
 五三乃至二五五紐章一三四乃至一三六

第九百十四條 第九百八條乃至第九百十條第九百十二條  
 及七前條ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス

(參照) 八二一七二二四二項乃至四項二二五二二三二項二三  
 三一項佛四九九五一三關五〇三乃至五〇六五一五伊二六  
 八二六九二七一三三九一項葡三三九三四六四二二七白草  
 四七六五〇三五〇四一項索一九九八

~~一 未成年者~~

~~二 禁治產者及シテ禁治產者~~

~~三 有許可公權者及シテ停止公權者~~

~~四 裁判所ニ於テ免職セラレシムル法官代~~

~~理人又ハ保佐人~~

五 復掩ラ得サル者

六 被後見人ニ對シ新詔ヲ為シ又為シタ

ル者及ヒ其配偶者並ニ直系血族

七 行方ノ知レサル者

八 親族層ニ於テ後見ノ任務ニ堪ヘサル

事跡不正行為又ハ著シキ不行跡アリト

認メタル者

法典調査會

(参照)

理由 本條ハ既成法典民法人妻歸する八十條

及ヒする八十條ノ規定ヲ修正シテ之ニ修正

ヲ加ヘタルモノナリ既成法典ニ於テハ缺格ノ

場合ト除外露點ノ場合トヲ分ケテ之ヲ規定ス

シタルモノ<sup>是</sup>ト畢竟或人カ後見人タルコトヲ得

サル存因ニ對リテ區別シタルニ因キス其些等



ノ者ノ後見人タルコトヲ得サレハ總テ同一ナ  
 ルヲ以テ本条ニ於テハ一柱シテ之ヲ本条ニ規  
 定シタルナリ尙其形式ニハ實質ニ於テ改成法  
 律ト要ナル形左ノ如シ

一人事編ヲ百八十一條ヲ一号及ヒテ二號ニ從  
 合シテ本條ヲ八號トシタリ實質ニ於テハ二  
 者ヲ其テシ

法典調査會

二因條ヲ三號ニ於テハ免點セラシタル裁判上  
 ノ保佐人トシタルヲ本条ニ於テ増補シテ  
 免點セラシタル法定代理人又ハ保佐人トシ  
 タリ實質ニ於テ觀ル廣クシタルモノトス  
 三改成法典人事編ニハ行方ノ知レサル者ヲ指  
 テサルヲ以テ行方不明者ヲモ後見人トラス

中

ル 結果ヲ生ラシメルノ如キ者ラシテ後見

人ヲラシムルトキハ 被後見人ノ不利益ナル

コト明カナルヲ以テ本條ニテ七辨ニテ之ヲ扱

ハレタリ

第九百十五條 第九百八條乃至第九百一十一條

第九百一十三條存七前條ノ規定ハ保佐人ニ之

ヲ準用ス

法 典 調 査 會

九百一十一條

參照八二二、四二二、四二四、二五二、三三三、三三三、  
三、一項佛四九九五、一三、附五〇三乃至五〇六、五一、五伊二六  
八二、六九二七、一三、三九、一項葡三三三、三九、三四、六西二二七、白草  
四七、六五〇、三、五〇、四、一項索一九九八

ハ又ハ後見人

定ハ保佐人

ニモ準用スヘキモノナルコトヲ示シタリ

ノニシテ既成法典ト變ナル所ナレ前條ノ規定

ニ關シテ後見人ト保佐人トシテ分ツヘキ必要ナ

キヲ以テ後見人ニ關スル規定ヲ保佐人ニ準用

中



明治二十九年五月十日  
同日六月十日  
同日五月十日  
同日六月十日  
同日五月十日  
同日六月十日  
同日五月十日  
同日六月十日  
同日五月十日  
同日六月十日

ハル結果ヲ生ラシムル如キ者ラシテ後見

人トシテ見ルトキハ被後見人ノ利益ナル

コト明カナラズテ本條ニテ七辨ニテ之ヲ被

ハシタリ

第九百十五條 第九百八條乃至第九十一條

第九百十三條存亡前條ノ規定ハ保佐人ニ之

シ準用ス

法典調査會

**理由** 本條ハ後見人ト為ルヘキ者又ハ後見人

ト為ルコトヲ得ザル者ニ關スル規定ハ保佐人

ニモ準用スヘキモノナルコトヲ示シタルモノ

ノニシテ既成法典ニ要ナル所ナシ前條ノ規定

ニ關シテ後見人ト保佐人トシテ分ツヘキ必要ナ

キヲ以テ後見人ニ關スル規定ヲ保佐人ニ準用





シタルナリ

第二款 後見監督人

理由 後見監督人トハ其名稱ノ示ス如ク後見人

カ果シテ能ク其任務ヲ盡スヤ否ヤヲ監督スニ

者ニシテ必要ナル一ノ後見代理人ナリ佛伊ノ民

法亦之ヲ置クヲ必要トヤク一既成法典ニ於テハ

必ズシモ之ヲ置クヲ要スル唯之ヲ置クコトヲ

法典編纂會

得んモノトシ差シ之ヲ置ケル場合ニ於テ監督

ヲ要スルコトアルトキハ親族會ニ於テ層第一

ヲ指定シ臨時ニ後見監督人ノ任務ヲ行ハシム

ルコトトシタルモノ(一九九五)七〇若クモ後見人

代理人トシテ後見人ヲ置キ彼ラニテ種々ノ任務

ヲ盡サシムルモノトセ人之カ行為ヲ監督スル概

在野

関ヲ設ケサルトキハ或ハ後見人ヲシテ十分ニ

其任務ヲ盡サシムルコト能ハサルニ至ルモ計

ラシサルヲ以テ本案ニ之ヲ設ケタルナリ獨逸

普通法乃ニ独逸民法草案ニモ規定聯邦德國ノ

法律ハ既成法典ト相似テ強テ之ヲ置カシナサ

ルモ彼國ニアリテハ裁判所ハ後見ノ業務ニ干

渉スルコトナク殊ニ後見人ノ監督人如キハ直

法典調査會

ンテ之ヲ為ス場合アルヲ以テ強テ別ニ後見監

督人ヲ置カレメサルナリ尚裁判所以外ノ官廳

公布力後見人ノ任務ヲ監督スル國ニアリテモ

強テ後見監督人ヲ置カレメサルモ我國ニ於テ

ハ官廳其他ノ者ヲシテ成(ク)私人ノ内事ニ干

渉セシメサルノ主義ヲ採リタルヲ以テ特ニ後



見監督人ヲ置カシムル必要ヲ生シタルナリ

第九百十<sup>六</sup>條 後見人ヲ指定スルコトヲ得ル

者ハ遺言ヲ以テ後見監督人ヲ指定スルコトヲ

(参照) 一六九二項澳二一、二八〇伊二六四一項西二三三  
第一草一六四七四項同二草一六七二四項普千八百七十五  
年七月五日法二六五項

理由 本條ハ即月日付ノ遺言ニ於テ百六十九

條ヲ二項ノ規定ト其主意ヲ同シウス在項ニハ

後見監督人ハ後見人ヲ定ムルト同一ノ手續ニ從

法典調査會

ヒラシラ指定スル言ヘルヲ改メテ後見人ヲ指

定スルコトヲ得ル者ニ後見監督人ヲ指定スル

コトヲ得トシタルナリ後見人ヲ指定スルコト

ヲ得ル者ハ第九<sup>十</sup>條ニ規定シタル文又ハ母

ナリ尙令項ニハ又ハ親族層上<sup>ニ</sup>於テ之ヲ指定ス

トシ文章上後見人ヲ定ムルト同一ノ手續ニ從

54







ヒテ之ヲ指定スルト親族會ニ於テ之ヲ擬定ス

ルトハ擧ニシテ前後ナキカ如クナルニ本條

ニ於テ之ヲ明カニシ先ツ本條ニ於テ後見監督

人ヲ指定スルコトヲ得ル者ヲ定メ此<sup>規</sup>規定ニ依

リテ指定シタル後見監督人ナキ場合ニ親族會

カ之ヲ擬定スルコトヲ次條ニ明カニシタリ

第九百十七條

前條規定ニ依リテ指定シタル

法典調査會

ル後見監督人ナキトキハ法定後見人又ハ指

定後見人ハ其事ヲ着手スル前親族會ノ提

原ヲ請求シ後見監督人ヲ選定セシムルコト

ヲ要ス若シテニ違反シタルトキハ親族會ハ

其後見人ヲ選定スルコトヲ得

親族會ニ於テ後見人ヲ選定シタルトキハ直



(參照) 八 一六九一七〇、十五年十一月十六日內務省指三佛四  
二〇一項四二一、四二二、五〇五、五〇六、四二二、二乃  
至四二四、五〇三、一項五〇五、五〇六、三項伊二六四乃至二六  
六四二〇、一、二〇、六二、三三、三、三四、白草三九八乃至四〇〇、獨  
一章一六四七、一七三三、同二章一六七二、一七七九、一七八〇、  
普千八百七十五年七月五日法二六

軍久  
ハトスル  
カラス

後見監督人ヲ置クコトヲ要ストせん 諸國ノ規

定亦悉ク本條ト同ノ規定ヲ設ケテ後見監

督人ナキトキハ後見人ハ財産調査員ノ調

査等ニ從本スルコトヲ得サンヲ以テハ亦テ親

法典調査會

族會ニ於テ後見監督人ヲ選定スル為メ之カ招

集ヲ請ホセサレハカラス然レニニ選及ヒテ隨

意ニ後見ノ事務ヲ三着トスルトキハ孰族會ヨリ

之ヲ點セラレシ

後見人ハ法定若クハ指定ノ後見人ナレバ後見

監督人ナキトキハ之カ選定ヲ請ホセサレハカ

目録  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、  
十一、  
十二、  
十三、  
十四、  
十五、  
十六、  
十七、  
十八、  
十九、  
二十、

36

4 後見監督人ヲ選定スルコトヲ要ス

(冬臨)  
理由 既ニ後見監督人ヲ置クコトヲ要ストスル

以上ハ必不十本條ノ如キ規定ナカレバカラス

後見監督人ヲ置クコトヲ要ストセシテ諾國ノ規

定亦悉ク本條ト同一ノ規定ヲ設ケテ後見監

督人ナキトキハ後見人ハ財産ノ該書冊録ノ調

製等ニ從事スルコトヲ得ザルヲ以テ必不十親

法典調査會

後見ニ於テ後見監督人ヲ選定スル為メ之カ招

集ラテ請ホセザルハカラス若シニ違反シテ隨

意ニ後見ノ事務ヲニ着キスルトキハ執後會ヨリ

受點セラレシ

後見人ハ法定若クハ指定ノ後見人ナシモ後見

監督人ナキトキハ之カ要定ヲ請ホセザルハカ





ラス後見人ニシテ親族層ニ於テ監定セラレシタ

ル者ナレトキハ之ヲ請ホスルノ要ナレ何トナ

レハ親族會ニ於テ後見人ヲ監定シタントキハ

直ニ後見監督人ヲ監定スルコトヲ要スト規

定シタルナリ即チ本條ヲ二次ニシテ之ヲ設ケ

タルハ<sup>（童親ノ）</sup>手續<sup>（存シ）</sup>ヲ省略セシカ為ナリ固

言フ親族會ハ法定後見人又ハ指定後見人ヨリ

法興調査會

請ホテ待タスレテ後見監督人ヲ請ホスルコト

ヲ得ルハ勿滞ナレシ

第九百十八條<sup>二</sup> 後見人<sup>一</sup>親族<sup>一</sup>後後見監督人<sup>一</sup>款

ケタントキハ後見人ハ<sup>（存シ）</sup>滞ナク親族會ノ規

定<sup>（存シ）</sup>ヲ請ホシ後見監督人ヲ監定セシムルコト

ヲ要スレ場合ニ於テハ前條ノ一項ノ規定ヲ



38

カ  
（參照）入一六九一七。

準用ス

理由 本條ハ外國ニ其例數ナキ所ナルモ其意

ニ於テハ何レノ法律モ亦セノ如クナリ前條

トノ條旨ヲ得セシメタムモノニシテ即チ前條

ハ後見ノ事務ニ着手スル前ニ後見人ノナキ場

合テ規定ニ本條ハ社職ノ後見缺タムニ場合ヲ

規定ス

法典編查會

第九百十九條 後見人ノ更換アリタムトキハ

親族會ハ後見監督人ヲ改選スルコトヲ得ス

但前後見監督人ヲ改選スルコトヲ妨グス

新後見人カ親族會ノ選定ニ係ラザルモノ

トキハ後見監督人ハ停滯ナリ親族會ノ招集

ヲ請求シ前項ノ規定ニ依リテ改選ヲ為サレ

中作

法律ニ定置ノ原則  
ニテ歸屬原則ナリ

38

準南ス

七  
(朱照)

理由 本條ハ外國ニ其例數ナク所ナリモ其意

ニ於テハ何レノ法律モ亦セノ如クナリ前條

トノ梳衝ヲ得セシメタムモノニシテ即チ前條

ハ後見ノ事務ニ着手スル前ニ後見人ノナキ場

合テ規定ニ本條ハ祇職ノ後莫缺タムニ場合ヲ

規定ス

法典編查會

第九百十九條 後見人ノ更換アリタムトキハ

親族唐ハ後見監督人ヲ改置スルコトヲ得ス

但前後見監督人ヲ改置スルコトヲ妨グス

新後見人カ親族會ノ鑒定ニ係ラザルモ

トキハ後見監督人ハ停滯ナリ親族會ノ招集

ヲ請求シ前項ノ規定ニ依リテ改置ヲ為サシ

中作



申作

ナルコトヲ示ス若シテニ違フニタルトキハ

後見人ノ行為ニ付キテト連帯シテ其責ニ

付ス

(参照 佛四二五 附四三二)

理由 本條ハ後見監督人ノ職務ノ性格ヨリ生

スル規定ナリ 後見監督人ハ後見人ノ任務ヲ盡

スヤ否ヤヲ監督スル者ナリ之ヲ定ムルニ當リ

テハ其後見人トノ間ニ在ケル親族上財産上等

法典調査會

ノ諸關係ニヒ從來ノ經歷年數等ヲモ参考トシ

ハ後見人ナルカ故ニ彼ノ後見監督人ニ之ヲ可ナリ

トシ總テノ標準ヲ後見人ニ授リテ之ヲ定メタ

ルモノナルヲ以テ其標準タル後見人ノ更迭ア

リタルトキハ之ニ伴フテ後見監督人ヲ改選ス

ヘキハ當然ナルヘン故ニ本條亦一項本条ノ妙

39

目録 第二十二頁

39

ルコトヲ考テ若シテニ業ニシタルトキハ

後見人ノ行為ニ付キテト連帶シテ其責ニ

付ス

**参考**

理由 本條ハ後見監督人ノ職務ノ性格ヨリ生

スル規定ナリ後見監督人ハ後見人ノ任務ヲ盡

スヤ否ヤヲ監督スル者ナリ之ヲ定ムルニ當リ

テハ其後見人トノ間ニ在ケル親族上財産上等

法典調査會

ノ諸關係ヲヒ從來ノ經歷年數等ヲモ参考トシ

以て後見人ナルカ故ニ彼ノ後見監督人ニ之ヲ可ナリ

トシ總テノ標準ヲ後見人ニ操リテ之ヲ定メタ

ルモノナルヲ以テ其標準タル後見人ノ変更ス

リタルトキハ之ニ伴フテ後見監督人ヲ改選ス

ヘキハ當然ナルヘン故ニ本條第一項本文ノ如

中作



ク規定シタルナリ知レトモ必ズレモ常ニ之ヲ  
 改定セザルヘカラストスルトキハ却テ当事者  
 ノ不利益ヲ来ス場合ヲ生スルヲ以テ例外トシ  
 テ前後見監督人ヲ重選スルコトヲ得ルヲトセ

親族会ニ於テハ後見人ヲ選定シタルトキハ親  
 族会自ラ直ニ後見監督人ヲ選定スルヲ以テ何

法典調査會

人モ後見監督人ノ改選ヲ親族会ニ請ホスルコ  
 トヲ容セサレトモ若シ新後見人ニシテ法廷後  
 見人又ハ指定後見人ナルトキハ親族会ハ依然  
 後見人ノ更迭シタルコトヲ知ラザル場合アル  
 ヘシ故ニ亦二項ヲ設ケ後見監督人ヲシテ之ヲ  
 請ホセシムルコトトシ若シ之ヲ請ホセサルト

(参照佛四二三西二三五白章四〇、二項)

キハ後見人ノ行為ニ付キ後見人ト連帶シテ其責ニ付ストシタリ)

第九<sup>十四</sup>條 後見人ノ配偶者直系血族又ハ

弟妹ハ後見監督人タルコトヲ得ズ

理由 後見人ト後見監督人トノ關係上或程度

ノ人ニ限リテララ後見監督人ト為スコトヲ得

サレバ如何ナル者ヲ後見監督人ト為スニカ

法典調査會

ラストスニカハ(國ニ依リテ異ナリ)又佛國民法

ハ日本國民法(官章)等(外國)於テハ後見人ト後見監

督人トハ同親等ノ者タルニカラストシテ後見人

人ハ父系ノ者ナルトキハ後見監督人ハ母系ノ

者タルニシトシタルナリ)而シテ若シ母系ノ者

ノ中ニ後見監督人ト為スニ適スル者ナキトキハ



他ヨリエラ違ハシクハナリ然レトモ此ノ如キ

區別スルヲ要スル帰スル所ハ後見監督人タル

者ハ後見人ヲ監督スルニ十分ナル者ナシト可

ナルヲ以テ救國情ヲ醜酌シテ本條ノ如ク定メ

タムナリ妻ニシテ夫ヲ監督スルニ妻ヲ監督ス

ルモ其監督ニ足ラザル所アルヘク父子相監督

弟妹ニシテ兄弟ヲ監督スルハ不可ナク所アル

法典調査會

第九百三十五條 後見監督人ノ職務タル如シ

一 後見人ノ事務ヲ監督スルコト

二 後見人ノ缺ケタル場合ニ於テ遺澤ナル

其後但右ノ任務ニ就クコトヲ促シ若シ後

亡者ナキトキハ親族会ノ招集ヲ請ホヒ其

招集ヲ為サシムルコト

世

三 公道ノ事情アル場合ニ於テ必要ナル處

令ラ為スコト

四 後見人又ハ其代表スル人ト被後見人ト

後

代表ス

参照八一九乃至二〇。十五年九月二十六日内務省損十  
九年四月二十七日司法省損佛四二。二項四二四澳二一  
乃至二一四、二七、二七二、四二七乃至四三一五。六三項  
伊二六六二項三項西二三六白章四五六獨一章一六五二一  
六五四同二章一六七五二六七六一六七九

理由 本條ハ既成法典民法人事編ヲ百九十八

條ノ至チ二百條ヲ併合シタルモノト大體ノ主

法典調査會

意ヲ因レウシテ後見監督人ノ職務ハ畢竟後見人

ノ任務ヲ盡スル中必要ヲ監督スルニアルコト屬

ホ(タン)ハクナルモ此外尚後見人ノ職務アル

場合ニ後任者ノ新任ヲ促カシ公道ノ事情アル

場合ニハ自ラ必要ナル處令ラ為スニキコトト

スル等ノコトアルヲ以テ本條ニ於テ其職務ヲ明



カニ列記シタルナリ既成法典ト異ハズ所ハ後

見人ノ後任者カ任務ニ執カサルトキハ之ヲ從

スコトヲ加ヘタルト既成法典ニ於ケル後見人ト

被後見人トノ間ニ利益相及スルトキハ後見監

督人ハ被後見人ヲ代表スト言フニ止マリタル

ヲ本案ニ於テ後見人又ハ其代表スル人ト被後

見人トノ<sup>利益</sup>云々トシ又ハ其代表スル人トシ又

法典調査會

字ヲ加ヘタルニマリ後見人ニシテ常ニ自ラ何

事ヲモ爲シ得ルハ可ナンモ<sup>支</sup>ニシテ多クノ被

後見人<sup>見</sup>ヲ有スル際ニアリテハ總テノ者ノ代表ヲ

為スコト秩ハサシ協定アルヘク又一人ノ被後

見人ト他ノ被後見人トノ利益相及スルトキハ

之カ代理ヲ為スヲ得サル協定アリテ又後

見人ヲ代表スル者ヲ是スヘキヲ以テ本條ノ如

キ規定ニ於テ單ニ後見人ト被後見人トノ利益

相及ズントキハト言フニ此マントキハ勿クハ

モ世人ノ疑ヲ拒クノ度アルヲ以テ之ヲ増補シ

タルナリ

第九百三十三條 第六百四十四條 第九百十三

條ニヒキルル十四條ノ規定ハ後見監督人ニ

法典調査會

(参照) 一六九三項 佛四二六 蘭四二五四 二六四三三乃至四  
四〇 葡五〇六三 項五一五 伊二六八二 六九二七一乃至二七  
六西二二七 二九二四 四二四 六白 草四〇二 獨一章一六四  
七 四項同 二章一六七 二四項 普手八百七十五年七月五日法  
二六五項 六三

猶ト相同

シキ六百四十四條ハ受任者ノ義務ニ関スル規

定ニシテ即チ受任者ハ受任ノ事トシテ但ヒ其規

定ニ管理者ノ注意ヲ以テ受任事務ヲ處理スル

義務ヲ負フト言ヘンモノニシテ三カ準用ニ依



一 後見人見後十二日  
一 後見人見後十二日  
一 後見人見後十二日  
一 後見人見後十二日  
一 後見人見後十二日  
一 後見人見後十二日  
一 後見人見後十二日  
一 後見人見後十二日  
一 後見人見後十二日  
一 後見人見後十二日

是人ヲ代表スル者ヲモテハキテ本條ノ如

キ規定ニ於テ單ニ後見人ト被後見人トノ利益

相及スルトキハトモ言フニ此マントキハ少クト

モ世人ノ疑ヲ拒クノ度アルヲ以テ之ヲ増補シ

タルナリ

第九百三十三條 第六百四十四條 第九百十三

條ニヒテ九百十四條ノ規定ハ後見監督人ニ

之ヲ準用ス

(参照)

理由 本條ハ其實質ニ於テ既成法中ト殆ト相同

シテ六百四十四條ハ受任者ノ義務ニ関スル規

定ニシテ即チ受任者ハ受任ノ事旨ニ從ヒ善良

ナル管理者ノ注意ヲ以テ受任事務ヲ處理スル

義務ヲ負フトモ言ヘルニシテ此カ準用ニ依

法典調査會





リテ後見監督人ノ注意ノ程度ヲ知ルヲ得ルナ

リ既成法典<sup>ニ依テモ</sup>示其人<sup>ニ</sup>事編第百二十二條ニ於テ後

見監督人ハ代理契約ノ原則ニ從ヒテ過失ノ責

ニ任スト言ヒテ本條ト同ノ主義ヲ採用セリ

第九百<sup>十七</sup>條ハ後見人ノ任務ヲ解スルコトヲ

得サル原則ト例外ヲ規定シ第九百<sup>十五</sup>條ハ

後見人ト爲んコトヲ得かん者ヲ列挙シタルモ

法典調査會

ノナリ何レモ之ヲ後見監督人ノ場合ニ適用ス

ルコトトシタルハ<sup>二</sup>後見<sup>ニ</sup>關シテ特ニ二者ヲ

方ツキ理由ナケレハナリ既成法典モ亦大体

ニ於テ本案ニ同シ人<sup>一九三三</sup>獨り疑ノ存スル

ハ<sup>二</sup>禁<sup>ニ</sup>卷者ノ後見人タルコト<sup>一九三三</sup>及<sup>三</sup>者人

後ハ後見ノ任務ヲ解スルコトヲ得トシタル規

47

在ラ後見監督人ニ準用スト云ハサルヲ以テ後

見監督人ハ十年ヲ経ルモ尚其任務ヲ解スルヲ

得サレトハソトノ解釋ヲ重ヌルモモキ如キ解釋

ヲ重ヌルトキハ不可ナルヲ以テ本案ニ於テハ

此点ニ関シテ亦後見監督人ニ準用スルコト

トシタリ外國ニ於テハ此準用ヲ明記セサレモ

ノ多ク或ハ解任スルコトヲ得ルニ至ルヘキ年

限リ後見人ト後見監督人トニ依リテ異ニシタ

ルモノアレトモ其理由ハ様々ニ足ルモノナキヲ

以テ本案ハ之ヲ同一年限ノ下ニ置キタリ

第三節 後見ノ事務

(理由) 本節ハ既成法典民法人書編ヲ十章ニ

節ニ設キテ同節ヲ百八十三條ヲ削除シタルハ

法典調査會

六

ちよ